

平成 23 年 度
(2011)

履 修 要 綱

昭和音楽大学

平成23年度
(2011年度)

履修要綱

この履修要綱は、卒業するまでの間の履修について定めたものです。

卒業まで大切に保管し、熟読して下さい。

目次

1	学 科 ・ コ ー ス	2
2	単 位 で 定 め る 学 習 時 間	2
3	卒 業 に 必 要 な 単 位 数	3
4	履 修 単 位 数 の 上 限	3
5	「専門教育」と「教養教育」について	3
6	教 育 課 程 (カ リ キ ュ ラ ム)	3
7	履 修 上 の 注 意	4
8	成 績 評 価	5
9	試 験 等	6
10	追 試 験	9
11	外 国 語 の 履 修 に つ い て	10
12	ソルフェージュの履修について	11
13	作曲学科専門科目の履修について	12
14	キャリア関連科目について	13
15	人 材 養 成 目 的	14
16	コ ー ス 別 教 育 課 程	15
17	資 格 課 程 履 修 に あ た っ て の 注 意	62
18	教 職 課 程	62
19	学 芸 員 課 程	65
20	社 会 教 育 主 事 課 程	66
21	音 楽 専 攻 科	67
22	教 務 関 係 用 語 の 解 説	68

1 学科・コース

本学音楽学部の学科組織は次の通りである。

学部	学科	コース	卒業に必要な単位数	年間履修単位数の上限
音楽学部	作曲学科	作曲 デジタルミュージック サウンドプロデュース 指揮	124	48
	器楽学科	ピアノ演奏家 ピアノ指導者 ピアノ音楽 オルガン 電子オルガン 弦・管・打楽器 弦・管・打楽器指導者 弦・管・打楽器演奏家 ジャズ ポピュラー音楽	124	48
	声楽学科	声楽 ジャズ ポピュラー音楽	124	48
	音楽芸術運営学科	アートマネジメント 舞台スタッフ 音楽療法 ミュージカル バレエ	124	48
				55

2 単位で定める学習時間

大学で行われる授業科目は単位制によって学習時間が定められている。本学において授業科目の単位数は、授業の種類や授業時間、自宅など授業外での学習などを総合的に踏まえ、個別授業の単位数を定めている。単位を修得するためには教室外の学習が必要であることを十分に理解すること。

- ① 法律で全ての授業科目は「1単位＝45時間の学修」と定められている。
- ② 本学においては教育効果等を勘案し、「2時間＝授業時間1コマ(80分)」と定めている。
- ③ この「45時間の学修」を各授業種別に定義したものが下記である。

1単位 = 45時間の学修 = <講義の場合>
 15時間の授業＋30時間の自習
 または30時間の授業＋15時間の自習
 = <演習の場合>
 30時間の授業＋15時間の自習
 または15時間の授業＋30時間の自習
 = <実技・実習・実験の場合>
 45時間の授業
 または30時間の授業＋15時間の自習
 = <実技個人レッスンの場合>
 毎週10分×30回の授業＋自習

(例) 講義科目で2単位の授業の場合

2単位 = 90時間の学修 = (授業30時間＋自習60時間)
 = (15回の授業＋自習60時間) の学修が必要。

3 卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには4年以上在学し、「卒業要件単位数」の合計124単位以上を修得しなければならない(教職・社会教育主事・学芸員に関する科目の単位は卒業単位に含まれない)。

このほか、教員免許状を取得しようとする者は教職課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。同様に学芸員課程及び社会教育主事課程を履修しようとする者は、各々の課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

4 履修単位数の上限

前述のとおり単位制度においては自習を含めた学修が前提となっている。授業時間のみを意識し、履修科目が過多になると、自習などの時間がなくなり、単位で定められた本来の学修時間を充たすことができなくなってしまうため、本学では単位の質を重視し、2ページのとおりコース別に年間の履修単位数の上限を定めている。

1年間に履修できる単位の上限を48単位とする。ただし、バリエーションに限り年間55単位とする。教職・社会教育主事・学芸員に関する科目については、上限単位に含まれない。

※ 例外として優秀な学生、意欲のある学生に対しては、審議の上単位の上限を超えて履修を認める場合がある。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

「卒業要件単位数」「単位数の上限」には、教職・社会教育主事・学芸員の単位は含まれないので注意しよう！！

5 「専門教育」と「教養教育」について

本学の教育は「専門教育」と「教養教育」という2つの考え方で成り立っている。

「専門教育」は各コース単位で行うそれぞれの専門分野における学習のことを指しており、これについては、カリキュラムポリシーやディプロマポリシー等を通じ、教育の目的や内容が明示されている。詳細は後述のコース別教育課程にて該当コースのページを参照すること。

一方、本学では教養を「現実の生活や人生をより豊かなものにする知恵と礼節とを含む精神」と捉え、これを身につけるための授業や教育のことを「教養教育」としている。これを通じて学生は、「自ら学ぶ意欲を喚起し、広い視野で主体的に行動する力を身につけ、高い品性とコミュニケーション能力を持って社会に貢献できる音楽人、社会人」になりうるとの考えで、専門教育と同様に重視している。

これらの考え方を反映し、下記のとおり教育課程が設定されている。

6 教育課程(カリキュラム)

本学の教育課程は学則において下記の3つの区分により編成されている。

【1】共通科目

特定の学科・コースに関わらず全学共通に開講されている科目で、その内容は多くの教養科目を中心に構成されている。

教養科目には、各コースの専門分野の学習において学問的な基礎を担う科目や、卒業後に社会人として生きていくために必要であると考えられる科目など多様な科目がある。

これらの科目の中で、各コースの専門分野を学ぶ上で、基礎として重要なものについては、カリキュラムにおいて必修となっており、その他の科目については原則として学生の学習意欲に応じて自由に選択し履修することができる。

【2】外国語科目

本学においては英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語の科目が開講されている。

この中から各コースのカリキュラムにおいて、履修すべき科目、単位数、履修年数等が定められている。英語についてはプレースメントテストを実施し、クラス分けを行っており、レベルにあったクラスで授業を受けることができる。外国語の履修方法については10ページを参照すること。

【3】専門科目

各コースの専門分野の学習のために設置されている科目で、共通科目とは異なり履修できるコースに制限がある科目である。カリキュラムによって必修・選択が指定されている。主科実技科目や専門分野に関する実習科目、卒業論文等がこれにあたる。

7 履修上の注意

- ① 履修科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分かれる。各学科・コースにより異なるので15ページ以降の教育課程を十分に理解して履修すること。
- ② 年度毎に作成される『履修登録に関する注意事項』『シラバス』を参考にして履修科目を決定すること。（「履修要綱」は入学時のみ配付なので、卒業まで大切に保管すること。）
- ③ 前期、後期開始時に指示された方法により履修を希望する全ての科目を登録すること。
- ④ 登録外科目や他学科・コース科目への出席は認めない。登録後の科目変更、取り消しはできない。
- ⑤ 必修科目が不合格となった場合は、原則として当該当年度後期または次年度以降に再履修しなければならない。不合格の科目が選択科目の場合は他の科目を履修してもよい。
- ⑥ 履修年次を参考に履修科目を選定し、卒業まで無理のない履修計画を立てること。
- ⑦ 「…①」、「…②」などの積み上げ科目、外国語、ソルフェージュなど履修年次が決まっている科目等については特に注意し、計画的な単位修得を目指すこと。
- ⑧ 実技については、履修できない科目や楽器があるので、各コースのカリキュラム表で確認すること。
- ⑨ 各自の専門に偏らず、広く知識、技術を学べる科目の選択が望ましい。授業内容等についてはシラバスに記載されているので確認すること。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修計画を立てるには、まずはじめに「コース別教育課程」を確認しよう！！外国語科目・ソルフェージュ・作曲学科専門科目・各資格課程は、それぞれの専門ページがあるので必ず確認しよう！！

8 成績評価

- ① 成績評価基準は、S(100～90点)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・F(59点以下)とし、C以上を合格として単位を認定する。Fは不合格とする。
- ② S(4ポイント)・A(3ポイント)・B(2ポイント)・C(1ポイント)・F(0ポイント)として、単位当たりの成績評価の平均値を示す**GPA(グレードポイントアベレージ)**を算出する。
- ③ 成績評価方法については、各授業科目によって異なるのでシラバスによって明示する。

【GPAについて】

GPA(グレードポイントアベレージ)とは、成績を単位あたりの平均ポイントで表したものです。

S:4ポイント A:3ポイント B:2ポイント C:1ポイント F(M, Tも同様):0ポイント

※認定単位“N”や履修取り消し科目“W”はGPA計算対象外です。

※不合格科目もGPAの計算対象となります。

※不合格科目を次の年に再履修して合格した場合も、合格の成績とともに、不合格の成績がGPAの計算対象となる。

具体例として、以下の場合のGPAを計算します。

科目名	単位数	成績	ポイント
情報機器演習	2	S	4
ピアノⅡ①	3	A	3
和声学①	4	B	2
経済学Ⅰ	2	C	1
西洋音楽史	4	F	0

- ・ ポイント合計 $(2 \times 4) + (3 \times 3) + (4 \times 2) + (2 \times 1) + (4 \times 0) = \underline{27}$
- ・ 単位数合計 $2 + 3 + 4 + 2 + 4 = \underline{15}$
- ・ GPA $27 \div 15 = \underline{1.80}$ (小数点第3位四捨五入)

<注意事項>

- 履修登録をした科目については、最後まできちんと授業に出ること。
- 万が一履修の取り消しをする場合は、期限を守り手続きをすること。
- 不合格科目は、卒業後も不合格として成績に残ります。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修取り消し手続きをすると、成績は“W”となりGPAの計算対象外となるので、取り消しをする場合は、必ず期限までに「履修取り消し手続き」をすること！！

期限を過ぎた場合は取り消しが出来なくなるので注意しよう！

9 試験等

【1】実技試験(個人レッスン)

A 定期試験について

- ① 定期試験は、原則として年間2回行う。
- ② 各試験の時間割は掲示板にて発表する。
- ③ 受験資格は、前期試験ではレッスン回数の半分以上の出席を、後期試験では年間20回以上の出席を得た者とする。また、所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。

B 試験運営について

① 実技試験種別

1～4年次 :前期実技試験、後期実技試験
音楽専攻科・研究生 :前期実技試験、後期実技試験

② 試験重複届

試験実施日時に2科目以上の試験が重複する場合、伴奏者が他の試験と重複する場合は、事前に「試験重複届」を提出すること。

C 実技試験注意事項

【ピアノ実技試験】

- ① それぞれの試験の課題曲、演奏時間については、その都度発表する。
- ② 暗譜で演奏し、原則として繰り返しはしない。

【電子オルガン実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間については毎年度当初に発表する。

【弦・管・打楽器実技試験】

① 演奏時間・課題曲

各試験の演奏時間は次のとおりとする。課題曲についてはその都度発表する。

1年次前期	5分以内の基礎的内容(スケール・エチュードなど)含む試験
2年次前期	5分以内
3・4年次 演奏家コース	10分以内
卒業試験	15分以内(チューニング等準備の時間を含む)
音楽専攻科修了試験	30分以内(チューニング等準備の時間を含む)
研究生修了試験	15分以内(チューニング等準備の時間を含む)
上記以外の試験	7分以内
全副科	3分以内

② 伴奏者について

伴奏者は各自で用意すること(ただし原則として本学学生・伴奏講師・伴奏研究員に限る)。

【声楽実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間は毎年度当初に発表する。
- ② 長い前奏、間奏、特に後奏はカットすることが望ましい。
- ③ 研究生の修了試験を除き、過去の試験で一度発表した曲目を受験曲にすることはできない。
- ④ 原則として、原語で歌唱のこと。
- ⑤ 伴奏者については下記のとおりとする。

1～3年次	: 本学学生
4年次	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員
音楽専攻科・研究生	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員

【作曲実技試験】

- ① 作曲学科の提出作品は年1回とし、課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。
- ② 提出作品は、未発表のものに限る。

【ジャズ系実技試験】

それぞれの試験の課題曲、演奏時間についてはその都度発表する。

【ポピュラー系実技試験】

それぞれの試験の課題曲、演奏時間についてはその都度発表する。

【2】学科目試験

A 定期試験について

- ① 原則として年間1回の定期試験を行う。その他試験についてはシラバスを参照のこと。
- ② 各試験の時間割は試験開始の1週間前までに発表する。ただし試験時間は通常の授業時間と異なることがあるので注意すること。
- ③ 授業回数の3分の2以上の出席を受験資格とする。また、所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。

B 学科目試験の運営について

- ① 原則として通年科目は30回の授業とは別に年間1回、また半期科目は前期・後期の15回の授業とは別に1回の定期試験を実施する。
- ② 複数担当者のいる授業、複数クラスのある授業の場合には共通試験期間中に合同で試験を行う場合がある。時間割は別途掲示にて発表する。

【3】レポート試験及び提出物

授業、定期試験、追試験等でレポートを提出しなければならないことがある。レポートの提出方法は次のとおりとする。

- ① 通常授業でレポートを提出する場合は担当教員の指示に従うこと。
- ② 定期試験が「レポート試験」になる場合は、定められた期日までに指定された方法で提出すること。
- ③ 作成にあたってはペン・ボールペン書きまたはパソコンとする(鉛筆書き不可)。
- ④ 特に指定のない場合は、本学指定の用紙を用い表紙をつけ、しっかりと綴じること。

- ⑤ 提出に際しては、「レポート提出証(学部:青 短大:ピンク)」に所定の事項を記入(鉛筆書き不可)して左上部に貼付すること。提出証の控えは必ず保管すること。
- ⑥ 定められた期限以降は受理しないので注意すること。

<重要> レポート、論文等における盗用・剽窃行為について

引用であることを明記せず、書物やウェブ上のサイトから他人の文章を丸写ししたり、抜き書きしたりすることは、盗用や剽窃行為となる。

上記のような盗用や剽窃行為によるレポート・論文は試験におけるカンニングと同様に不正行為に当る。

※ 剽窃^{ひょうせつ} = 他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること。

【4】受験時の注意事項

A 受験者は次の諸点を厳守しなければならない。

- ① 受験科目は履修手続き済みのものであり、授業料等学費の滞納のないこと。
- ② 指定された試験場で受験すること。(開始5分前までに着席すること。)
- ③ 受験の際は学生証または受験許可証(仮学生証)を必ず所持すること。
- ④ 学科目試験において遅刻した者は担当教員の指示を受けること。
- ⑤ 実技試験においては、指定された日までに担当教員に受験曲目票を提出する。試験当日は自分の受験すべき時間に遅刻した者は受験できない。
- ⑥ 不正行為をしてはならない。
※以上の他試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示に従うこと。

B 不正行為に対する処分(重要)

- ① 私語や、態度の不正な者、監督者の指示に従わない者、その他不正行為とみなされた者に対し、監督者は退場を命じ、かつその答案を無効とする。
また、不正行為が認められた場合は、受験した科目も含め、当該期の全科目を無効とする。
- ② 処分された学生については学内に公示する。
- ③ 不正行為として処分された者は、留年となることがあるので十分注意すること。
※ 不正行為は「懲罰」の対象であり記録に残る。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

仮学生証の発行は年に1回のみ！ 学生証は必ず所持しよう！！

実技試験・学科目試験等の日程や課題は掲示にて発表。常に掲示を確認すること！！

掲示物の見間違いには注意！ 注意深く確認しよう！

その他の連絡事項等も掲示板を利用しての連絡が多いので、掲示板のチェックは大切！！

10 追試験

【追試験】

定期試験を欠席し、追試験を希望する学生に対して行われる試験である。学生は本学が認めた場合のみ受験できる。

追試験の成績評価は得点より1割減となる。公欠制度による追試験受験は本試験扱いとして成績評価する。

【「追試験願」の提出について】

追試験の希望者は「追試験願」用紙に欠席の理由が証明できる次の書類を添付して教務課に提出すること。

- ① 急な病気・ケガによる欠席の場合は、欠席した日に治療、診断したことが分かる医師の診断書。
- ② 交通機関の事故。遅延等による欠席の場合は、交通機関が発行する証明書。
- ③ 本学が公欠として定めた就職試験による欠席は、就職試験実施証明書(書式は厚生課)。
- ④ 本学が公欠として定めた忌引による欠席は、学費負担者が署名・捺印した忌引願(書式は教務課)。
- ⑤ 上記以外の本学が公欠制度として定めた欠席については、それを証明することができる書類。
- ⑥ 「追試験願」は試験日を含め4日以内(土日祝日含む)に提出すること。但し土日祝日は提出を受付けない。

【注意事項】

- ① 全ての手続きにおいて添付書類の無い「追試験願」は一切受付けない。
- ② 試験当日、電話による連絡は欠席理由を認めるものにはならない。期日までに手続きをすること。
- ③ 病気・ケガによる通院、治療、入院など試験に欠席することが予想される場合は必ず事前に手続きをすること。
- ④ 就職試験や他の公欠制度など、事前に欠席することが分かっている場合は必ず事前に手続きをすること。
- ⑤ 出席日数不足等による受験停止者の追試験願は受付けない。

【追試験実施について】

- ① 学生から提出された「追試験願」を本学が審査する。受験が認められた学生については掲示で案内。
- ② 受験が認められた学生は、事務局内設置の券売機にて追試験受験証紙(学科目1,000円、実技3,000円)を購入し、教務課へ提出。公欠制度による追試験は証紙が不要なので、所定用紙を提出すること。
- ③ 本学が定めた日程において追試験を受験すること。
- ④ 追試験欠席による追試験は行わない。本人の自己都合で、定められた追試験日に受験できない場合も理由のいかんを問わず同様とする。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

追試験を希望する場合には必ず期限までに手続きをすること！！

手続きに必要な書類を提出できるようにきちんと準備しておこう！

追試験を受験するにあたり、受験料が発生することを覚えておこう！！

11 外国語の履修について

【1】外国語の卒業要件

下表を見て、履修すべき外国語・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		学部																			
		作曲学科				器楽学科						声楽学科			音楽芸術運営学科						
		作曲	デジタルミュージック	サウンドプロデュース	指揮	ピアノ演奏家	ピアノ音楽	ピアノ指導者	電子オルガン	オルガン	弦・管・打楽器	弦・管・打楽器指導者	弦・管・打楽器演奏家	ポピュラー音楽	ジャズ	声楽	ポピュラー音楽	ジャズ	アートマネジメント	舞台スタッフ	音楽療法
卒業要件	語学の種類	注1		イタリア語	注1						英語	イタリア語	英語	英語	注1	英語					
	単位	8	12	8						8	8	8	12 注2	8	8						
	年数 注3	2	3	2						2	2	2	3	2	2						

注1 英語・イタリア語・ドイツ語・フランス語の中から1ヶ国語を選択。

卒業要件に関わる単位・年数は、選択した語学1ヶ国語で数えるので継続して履修すること。

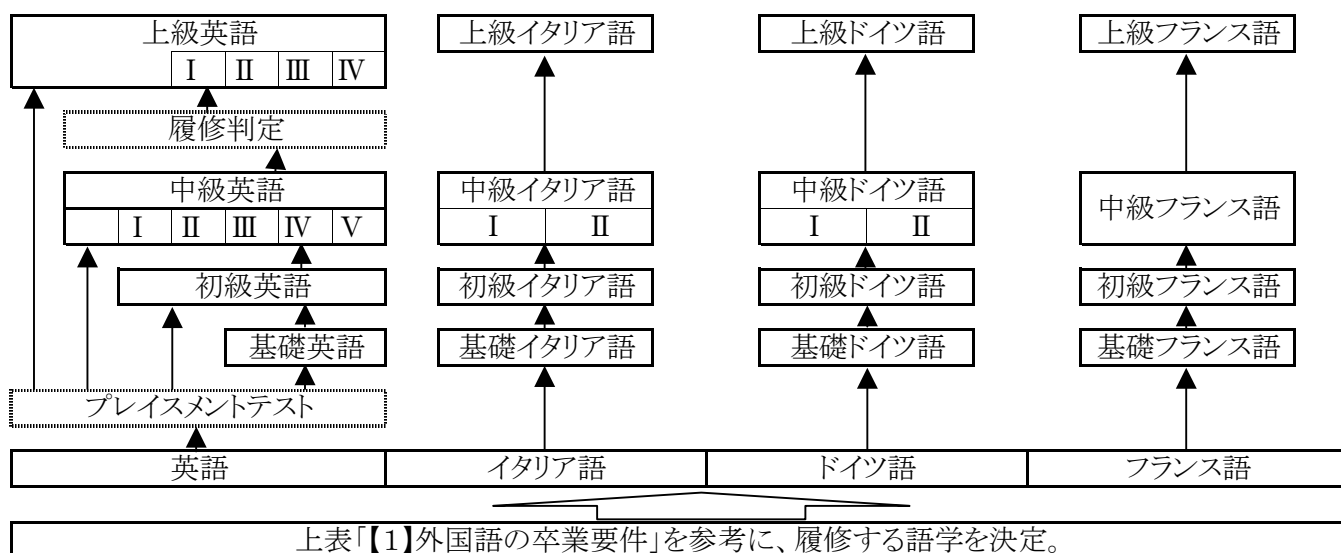
注2 12単位の中には必修科目の「アートマネジメント英語①」を含む。

注3 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

<その他>

- ・ 外国語は1年間に2ヶ国語(8単位)まで履修可。同一外国語ならば4単位まで。
(ただし、アートマネジメント英語①②は含まれない)
- ・ 履修するレベルは、それ以前に履修したレベルを下げて履修することはできない。
- ・ 「上級英語」を履修するには、「中級英語」を2科目以上単位修得した後、上級レベルの履修判定を受けなければならない。(プレースメントテストで「上級英語」履修を指示された場合を除く。)
- ・ 異なるレベルを同一年次には履修できない。
- ・ 全ての外国語科目はコミュニケーションを含む。
- ・ 1年次から履修を開始し、2年次で卒業に必要な単位数を修得すること。
(指揮、アートマネジメントは3年次)

【2】外国語の履修プロセス



12 ソルフェージュの履修について

【1】ソルフェージュの卒業要件

下表を見て、履修すべきソルフェージュ・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		学部																			
		作曲学科			器楽学科						声楽学科			音楽芸術運営学科							
		作曲	デジタルミュージック	サウンドプロデューサー	指揮	ピアノ演奏家	ピアノ音楽	ピアノ指導者	電子オルガン	オルガン	弦・管・打楽器	弦・管・打楽器指導者	弦・管・打楽器演奏家	ポピュラー音楽	ジャズ	声楽	ポピュラー音楽	ジャズ	舞台スタッフ	音楽療法	ミュージカル
卒業要件	ソルフェの種類	注1												視唱ソル注2	注1	注1					
	単位	4												0 (選択自由)	4	0 (選択自由)	2	4	0 (選択自由)		
	年数注3	2												0 (選択自由)	2	0 (選択自由)	1	2	0 (選択自由)		

注1 「視唱ソルフェージュ」「聴音ソルフェージュ」「総合ソルフェージュ」「鍵盤ソルフェージュ」の中から任意の科目を選択。「基本ソルフェージュ」を受講するよう指示があった場合は、そちらを履修すること。

また「基本ソルフェージュ」履修者は、「総合ソルフェージュ(初級)」も併せて履修することを推奨する。その他の科目は履修不可。この中からいくつかのソルフェージュを組み合わせ、卒業要件の単位数・年数を満たすこと。

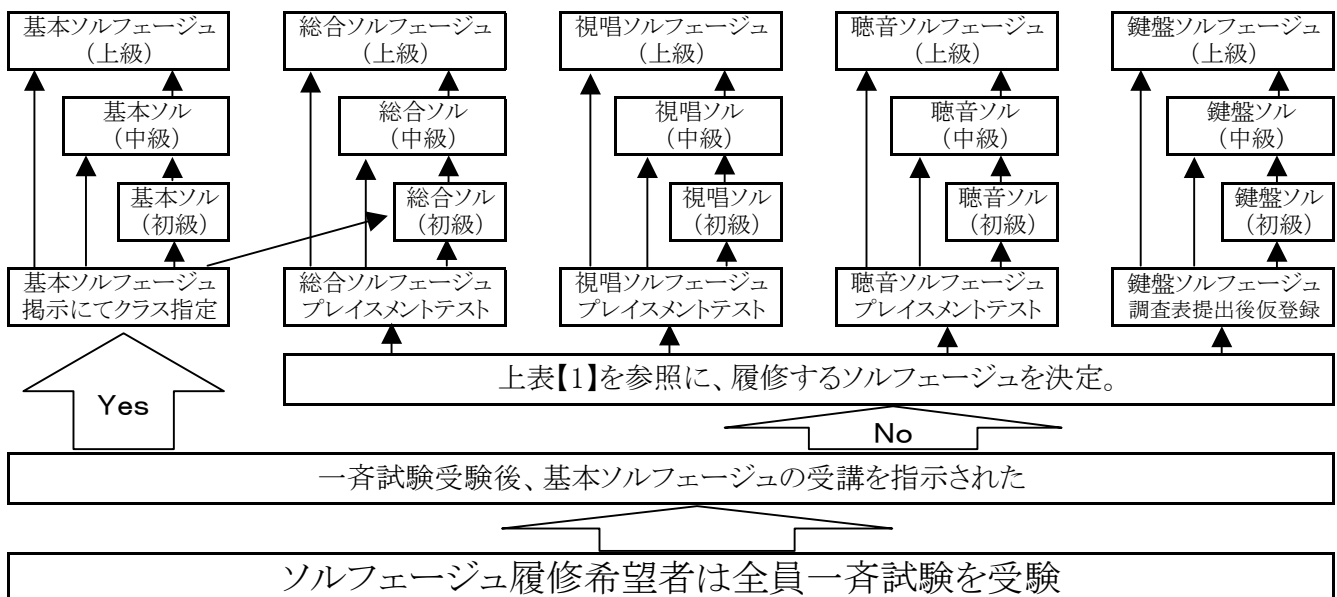
注2 学部 声楽コースの学生は、「視唱ソルフェージュ」を必ず2単位以上修得すること。初級～上級のレベルは問わない。この他に任意のソルフェージュを組み合わせ、卒業要件の単位数・年数を満たすこと。

注3 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

<その他>

- 履修するレベルが決まったら、翌年度以降そのレベルを下げて履修することはできない。

【2】ソルフェージュの履修プロセス



13 作曲学科専門科目の履修について

【1】作曲学科全コース 理論系科目の履修について

A 理論系科目（音楽理論、オーケストレーション、対位法Ⅰ）の卒業要件

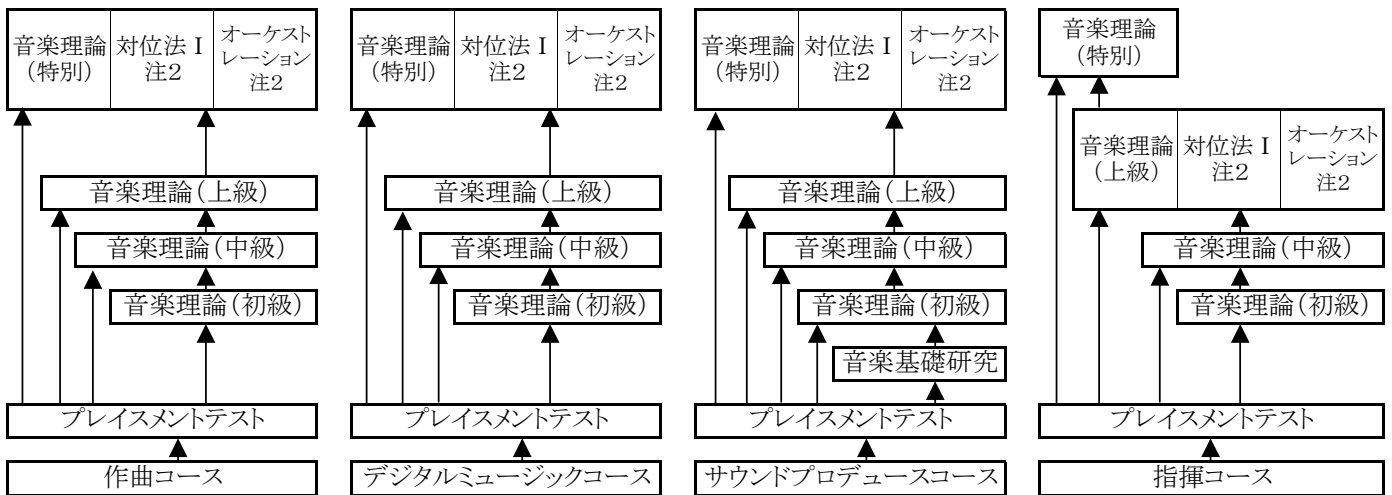
下表を見て、履修すべき理論系科目（音楽理論、オーケストレーション、対位法Ⅰ）・卒業に必要な単位を確認。

		学部			
		作曲学科			
		作曲	デジタルミュージック	サウンドプロデュース	指揮
卒業要件	科目の種類	音楽理論： (上級)、(特別)のいずれか1科目 + オーケストレーション、対位法Ⅰの いずれか1科目	音楽理論： (初級)、(中級)、(上級)、(特別) のいずれか2科目 注1	選択自由	音楽理論： (中級)、(上級)、(特別) のいずれか1科目 + オーケストレーション、対位法Ⅰの いずれか1科目
	単位	8	8	0	8

注1 プレイメントテストの結果が音楽理論(特別)になった場合は、オーケストレーション、対位法Ⅰのいずれか1科目を履修して卒業要件単位を満たす。

下記Bの音楽理論、オーケストレーション、対位法Ⅰの履修プロセスにしたがって履修する

B 音楽理論、オーケストレーション、対位法Ⅰの履修プロセス



注2 オーケストレーション、対位法Ⅰは2年次以降に履修可<その他>

- ・ 音楽理論の同時履修は認めない。
- ・ 音楽理論は、履修するレベル決定後、翌年度以降にそのレベルを下げて履修することはできない。

【2】作曲学科サウンドプロデュースコース選択必修 専門科目 の履修について

A 選択必修 専門科目 「ポピュラーピアノⅠ」「ポピュラーヴォーカルⅠ」「インストゥルメンツⅠ」履修上の注意

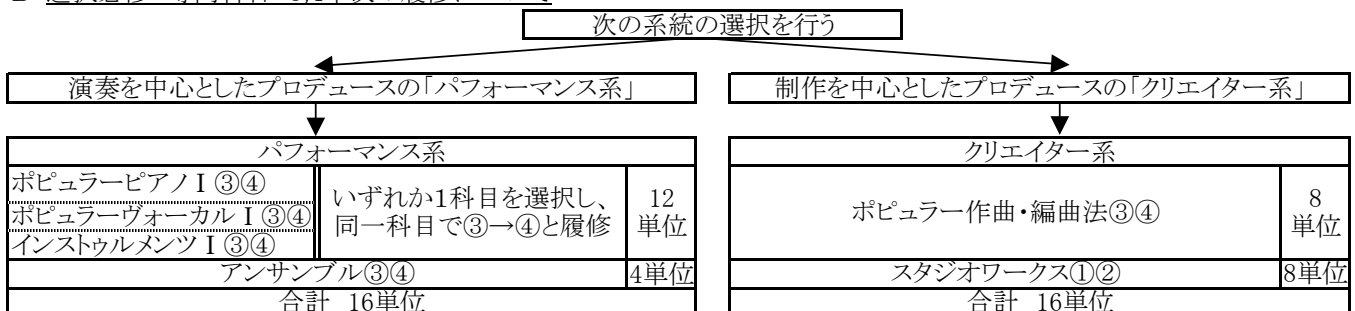
① 入学試験受験時に選択した科目を履修する。

例)ピアノで受験→ポピュラーピアノⅠ、ヴォーカルで受験→ポピュラーヴォーカルⅠ、ギター・ベース・ドラム・サクソフーン・トランペット・トロンボーンで受験→インストゥルメンツⅠ

② 2科目以上を選択することはできない。

③ 3年次以降の履修は、パフォーマンス系の場合のみ選択可。

B 選択必修 専門科目 3,4年次の履修について



14 キャリア関連科目について

本学では、キャリア形成支援に資する授業科目を「キャリア関連科目」として開講しています。

「キャリア関連科目」には、音楽人として音楽全般を高める音楽的なキャリア科目と、人間として一般常識等を身につける教養的なキャリア科目があります。

自分の専門分野の科目とキャリア関連科目を上手く組み合わせ履修し、自己のキャリア形成に役たててください。

なお、「キャリア関連科目」には必修科目と選択科目があるので、各コースそれぞれの履修要綱をよく確認してください。

大学
キャリア関連科目名
外国語科目全部
ソルフェージュ科目
芸術特別研究①
芸術特別研究②
鍵盤演奏表現Ⅱ
鍵盤演奏表現Ⅲ
鍵盤演奏表現Ⅳ
西洋音楽史
オペラ史
鍵盤音楽史Ⅰ
鍵盤音楽史Ⅱ
器楽史
音楽産業概論Ⅱ
音楽療法概説
音楽人基礎①
音楽人基礎②
音楽人研究
フィールドインターンシップ①
フィールドインターンシップ②
総合演習
総合教養
音楽活動研究Ⅰ
音楽活動研究Ⅱ
音楽活動研究Ⅲ
音楽活動研究Ⅳ
音楽コミュニケーション①
音楽コミュニケーション②

15 人材養成目的

学科別	学科別人材養成目的
作曲学科	<p>本学の作曲学科は、幅広いジャンルの音楽を創造できる人材を育成するために専門教育を行う。</p> <p>作曲コースにおいては、アカデミックな音楽能力を基盤とした豊かな創造力を持った芸術音楽の作曲家を育てる。</p> <p>デジタルミュージックコースにおいては、コンピューターを始めとするデジタルテクノロジーを駆使した作品の制作ができる作曲家を育てる。</p> <p>サウンドプロデュースコースにおいては、様々なジャンルの音楽に精通し、音楽産業界に幅広く貢献できるプロデューサーを育てる。</p> <p>指揮コースにおいては、音楽作品に対する洞察力を養い、芸術性豊かな表現を創造する指揮者を育てる。</p>
器楽学科	<p>本学の器楽学科は、各々の専門分野において実践的に幅広く活躍できる人材を育成するために専門教育を行う。</p> <p>ピアノ、オルガン、電子オルガン、弦管打楽器の各コースは、個々の学習者の目指す将来像を尊重し、ソロやアンサンブルの演奏家、優れた指導者を育てる。</p> <p>ジャズコース、ポピュラー音楽コースにおいては、表現技術を総合的に学び、多方面で活躍できる優れたミュージシャンを育てる。</p>
声楽学科	<p>本学の声楽学科は、国際的な視野をもって舞台等で実践的に幅広く活躍できる人材を育成するために専門教育を行う。</p> <p>声楽コースは、ベルカント唱法に根ざしたきめ細かい指導により、歌い手としての基礎能力を身につけると共にオペラ教育と海外研修を通じて西欧文化を吸収し、協調性や国際性を養い、個性と創造性豊かな音楽家を育てる。</p> <p>ジャズコース、ポピュラー音楽コースにおいては、表現技術を総合的に学び、多方面で活躍できる優れたジャズ、ポピュラーのヴォーカリストを育てる。</p>
音楽芸術運営学科	<p>本学の音楽芸術運営学科は、幅広く芸術文化活動を展開できる指導者・スペシャリストを育成するために専門教育を行う。</p> <p>アートマネジメントコース、舞台スタッフコースにおいては、自分自身の美学を持ち、感動を大切にできる運営のスペシャリストやクリエイターを育てる。</p> <p>音楽療法コースにおいては、臨床での実践力をもち、関連領域との連携・研究を行える音楽療法士を育てる。</p> <p>バレエコース、ミュージカルコースにおいては、舞台芸術にかかわる優れた表現者・指導者を育てる。</p>

16 コース別教育課程

学科・コース	作曲学科 作曲コース
カリキュラムポリシー	西洋音楽の作曲理論と高度な創作能力の修得を目指す。作曲実技では学生の個性にあわせて作曲能力を育成するとともに、和声学・対位法・オーケストレーションを通じて作曲技術を修得する。また、総合的な能力を持つ作曲家を養成するために、演奏技術をも修得する。
ディプロマポリシー	西洋音楽の作曲理論と高度な創作能力を身につけ、独奏曲、室内楽曲、管弦楽曲等の創作能力、および芸術音楽の作曲家として活躍できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修												選択			
				専門科目				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
27 単位	15 単位	11 単位	12 単位	最低 8 単位				最低 8 単位				最低 4 単位				39 単位以上			
合計 65 単位 (A)				最低 20 単位 (B)												124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「作曲実技①」→「作曲実技②」→「作曲実技③」→「作曲実技④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 専門科目については12ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「作曲実技」と「音楽理論」に教職課程の「音楽理論」と「作曲編曲法」を含む。
- B 「器楽Ⅱ①～④」の履修上の注意。「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能。
※変更は1回限りとする
- C 履修にあたって条件が適用されることがあるのでシラバスの履修上の注意を参照すること。
- D 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- F 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- G 教職課程履修者は「ピアノⅡ④」を履修することが望ましい。

学科・コース	作曲学科 デジタルミュージックコース
カリキュラムポリシー	デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作能力の修得を目指す。創作実技では多様なジャンルの作曲とコンピュータを用いた創作能力を修得する。音楽理論・コンピュータ音楽・録音制作・音響機器演習等の科目によって音楽制作やデジタルメディアに関する技術を修得する。
ディプロマポリシー	デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作能力を身につけ、サウンドアート・映像音楽・ゲーム音楽などの音楽業界で活躍できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修												選択							
				専門科目								外国語科目								共通科目			
				理論系				技術系				1年		2年						3年		4年	
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
26 単位	24 単位	6 単位	10 単位	最低 8 単位				最低10単位				最低 8 単位				最低 4 単位				28 単位以上			
合計 66 単位 (A)				最低 30 単位 (B)												124単位-(A)-(B)							

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「創作実技①」→「創作実技②」→「創作実技③」→「創作実技④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 専門科目については12ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「創作実技」と「音楽理論」に教職課程の「音楽理論」と「作曲編曲法」を含む。
- B 「器楽Ⅱ①～④」の履修上の注意。「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能。
※変更は1回限りとする。
- C 履修にあたって条件が適用されることがあるので、シラバスの履修上の注意を参照すること。
- D 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- F 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- G 教職課程履修者は「ピアノⅡ③・④」を履修することが望ましい。

学科・コース	作曲学科 サウンドプロデュースコース
カリキュラムポリシー	サウンドプロデューサーとしてポピュラー音楽制作に必要な作曲・アレンジ・演奏・プロデュース等の総合的な能力の修得を目指す。 最新のコンピュータベースのレコーディングや作曲を学び、現在のポピュラー音楽シーンを踏まえた創作方法を修得する。ポピュラー作曲編曲法・アンサンブル・スタジオワークス等の科目によって、総合的なポピュラー音楽制作の技能を修得する。
ディプロマポリシー	サウンドプロデューサーとして音楽業界で必要とされる作曲・アレンジ・演奏・レコーディング・プロデュース等の総合的な能力を身につけるとともに、企画力・プレゼンテーションスキル等も含めた音楽制作の実務ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択							
				専門科目				外国語科目								共通科目			
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
23 単位	23 単位	8 単位	4 単位	6 単位	6 単位	8 単位	8 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				26 単位以上			
合計 58 単位 (A)				最低 40 単位 (B)								124単位-(A)-(B)							

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「サウンドプロデュース①」→「サウンドプロデュース②」→「サウンドプロデュース③」→「サウンドプロデュース④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- △1印は「ポピュラーヴォーカル I ①」専攻者以外は教職必修。
- △2印は同じ印の中からいずれか1科目が教職必修。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 専門科目については12ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「ポピュラー作曲・編曲法」に教職課程の「作曲編曲法」を含む。
- B 「インストゥルメンツⅡ」で選択できる楽器は次のとおり。(ギター、ベース、ドラム、サクソ)
「インストゥルメンツⅠ」と「インストゥルメンツⅡ」で楽器の重複はできない。
「インストゥルメンツⅡ②」を履修する際に楽器変更をすることが可能。 ※変更は1回限りとする。
- C プレイメントテストの結果により「音楽基礎研究」を履修しなければならないことがある。
- D 履修にあたって条件が適用されることがあるのでシラバスの履修上の注意を参照すること。
- E 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- F 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- G 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- H 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」「鍵盤演奏表現Ⅱ」を履修することが望ましい。
- I 指定された学生(ピアノ初心者)は「鍵盤演奏表現Ⅰ」を1年次に履修しなければならない。
この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

学科・コース	作曲学科 指揮コース
カリキュラムポリシー	指揮者として必要な技術と音楽作品に対する洞察力、独自の解釈による音楽表現の修得を目指す。指揮実習では指揮法の技術を身につけるとともに、芸術性豊かな音楽表現を修得する。また、スコアリーディング・音楽理論・音楽実技科目を学ぶことによって、総合的な音楽能力を修得する。
ディプロマポリシー	指揮者として必要な技術と音楽作品に対する洞察力、独自の解釈による音楽表現を身につけ、オペラ、バレエ、オーケストラ等の指揮者として活躍できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				専門科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
33 単位	21 単位	19 単位	6 単位	合計 8 単位				最低 4 単位				33 単位以上			
合計 79 単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「指揮実習①」→「指揮実習②」→「指揮実習③」→「指揮実習④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 専門科目については12ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「器楽Ⅱ①～④」の履修上の注意。「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能。
※変更は1回限りとする。
- B 「総合音楽理論」と「音楽理論」に教職課程の「音楽理論」と「作曲編曲法」を含む。
- C 履修に当たって条件が適用されることがあるのでシラバスの履修上の注意を参照すること。
- D 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- F 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- G 教職課程履修者は「ピアノⅡ④」を履修することが望ましい。

学科・コース	器楽学科 ピアノ演奏家 I コース
カリキュラムポリシー	演奏家として、高い演奏技術、豊かな表現力、強靱な精神力の修得を目指す。ソロ、アンサンブルにおける豊富なステージ経験を積みながら、演奏分析、作品研究を通してより多様な音楽的解釈の方法を修得する。
ディプロマポリシー	高度な演奏技術、表現力を身につけるとともに、ソロ、アンサンブル、オペラ、声楽の伴奏など、多岐にわたる演奏表現ができるようになる。また、演奏家として楽曲を論理的に分析できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
22 単位	16 単位	19 単位	13 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				42 単位以上			
合計 70 単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノ実技 I ①」→「ピアノ実技 I ②」→「ピアノ実技 I ③」→「ピアノ実技 I ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 授業内容に合奏・伴奏法を含む。
- B 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- C 「アンサンブル①」既修者のみ履修可。
- D 「日本音楽概論 I」「日本音楽概論 II」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- F 「日本伝統音楽演習 I」「日本伝統音楽演習 II」の両方を同学期同時に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- G 「共同講義 I～VIII」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- H 「鍵盤音楽史 I」「鍵盤音楽史 II」どちらか1科目選択必修

学科・コース	器楽学科 ピアノ演奏家Ⅱコース
カリキュラムポリシー	高度な演奏技術、表現力、豊かな教養を身につけ、将来の音楽界に貢献できる演奏家を目指す。実技レッスン、アンサンブルレッスンを通じて演奏技術を磨き、国内外での多くの演奏会出演、コンクールへの出場を通じて、演奏家として必要な技術と表現力を修得する。
ディプロマポリシー	演奏会出演、コンクールへの出場によって演奏家として練磨された技能を各自の音楽に開花させ、幅広い活動ができるようになる。また、多くの音楽的経験を通して社会に貢献できるようになる。

卒業要件単位数

必修				選択必修				選択			
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
25 単位	9 単位	9 単位	13 単位	最低 20 単位				48 単位以上			
合計 56 単位 (A)				最低 20 単位 (B)				124単位 - (A) - (B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノ実技Ⅰ①」→「ピアノ実技Ⅰ②」→「ピアノ実技Ⅰ③」→「ピアノ実技Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 海外の大学短大に所属し、それを単位認定する場合の上限は59単位とする。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 定期実技試験は任意の作品とする。
- B 授業内容に合奏・伴奏法を含む。
- C 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- D 「アンサンブルⅠ①」既修者のみ履修可。
- E 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- F この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- G 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- H 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

学科・コース	器楽学科 ピアノ指導者コース
カリキュラムポリシー	教育者として必要な豊かな人間性、的確な指導力と自らの演奏能力の向上を目指す。音楽教室の生徒に対するレッスンを通じて指導法や生徒とのコミュニケーションの大切さを学び、卒業論文については、指導法に関して研究を行い、幅広い知識を修得する。
ディプロマポリシー	指導法の専門的、実践的な授業を通して、的確な指導力を身につけ、あらゆる年齢層に順応できるようになる。指導法に関しての論文執筆により、自らの指導法の知識を深めると同時に、指導現場における様々な局面に応用力をもって対応できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
28 単位	13 単位	14 単位	18 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				39 単位以上			
合計 73 単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノ I ①」→「ピアノ I ②」→「ピアノ I ③」→「ピアノ I ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「伴奏法 I ①」の既修者のみ履修可。
- C 3年次にピアノ演奏家コースへの変更希望者は必修。
- D 「日本音楽概論 I」「日本音楽概論 II」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- F 「日本伝統音楽演習 I」「日本伝統音楽演習 II」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- G 「共同講義 I～VIII」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- H 「鍵盤音楽史 I」「鍵盤音楽史 II」どちらか1科目選択必修

学科・コース	器楽学科 ピアノ音楽コース
カリキュラムポリシー	ピアノ音楽についての幅広い教養を身につけ、ピアノの演奏能力の向上を目指す。作品研究など楽曲を深く理解する為の手法を学び、4年次には卒業試験曲を詳細に研究し、論文を執筆することで多様な演奏解釈、豊富な知識を修得する。
ディプロマポリシー	音楽全般に関して幅広い教養を身につけるとともに、卒業論文における研究を通じて、音楽を深く理解し演奏表現に結びつけることができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修												選択			
				専門科目				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
29 単位	17 単位	14 単位	10 単位	最低 3単位	最低 3 単位			最低 8 単位				最低 4 単位				36 単位以上			
合計 70 単位 (A)				最低 18 単位 (B)												124単位-(A)-(B)			

基本的な注意事項(右表参照)

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノⅠ①」→「ピアノⅠ②」→「ピアノⅠ③」→「ピアノⅠ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年度を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「伴奏法Ⅰ①」の既修者のみ履修可。
- C 3年次にピアノ演奏家コースへの変更希望者は必修。
- D 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- E この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- F 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- G 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

学科・コース	器楽学科 オルガンコース
カリキュラムポリシー	総合的な演奏技術及び様々な分野に対応できる能力の向上を目指す。専門的内容の科目に加え、幅広い選択科目を修得し、また正統的な理論、音楽史等の知識を修得する。
ディプロマポリシー	演奏に必要な技術と知識を身につけ、幅広い教養課程や専門実技を通じ、多岐にわたる演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
20 単位	16 単位	10 単位	6 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				60 単位以上			
合計 52 単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」→「器楽Ⅰ③」→「器楽Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、上表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- C この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- D 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- E 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- F 「鍵盤音楽史Ⅰ」「鍵盤音楽史Ⅱ」どちらか1科目選択必修

学科・コース	器楽学科 電子オルガンコース
カリキュラムポリシー	電子オルガンの専門的技術、表現力、様々な分野に対応できる応用力の向上を目指す。音楽全般に関する幅広い知識を身につけ、ソロ・アンサンブルの技術と表現法を修得する。
ディプロマポリシー	演奏家としての高度な技術と表現、指導者としての幅広い音楽的教養を身につけるとともに、電子オルガンの多様性に即した思考ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	22 単位	10 単位	10 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				46 単位以上			
合計 66 単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「電子オルガン I ①」→「電子オルガン I ②」→「電子オルガン I ③」→「電子オルガン I ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- 「日本音楽概論 I」「日本音楽概論 II」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- 「日本伝統音楽演習 I」「日本伝統音楽演習 II」の両方を同学期同時に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- 「共同講義 I～VIII」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

学科・コース	器楽学科 弦・管・打楽器コース
カリキュラムポリシー	専門的内容の科目やアンサンブル音楽を通じて、様々な分野に対応できる人間性、社会性を身につけることを目指す。専攻実技の演奏技術を向上させるとともに、音楽家として必要な正統的な理論、音楽史等の知識を修得する。
ディプロマポリシー	音楽に関する専門技術・知識に加え、教養ある音楽人としてふさわしい応用力ある演奏ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	17 単位	10 単位	10 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				51 単位以上			
合計 61単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」→「器楽Ⅰ③」→「器楽Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- 合奏Ⅲは、弦楽器専攻の者が吹奏楽を、または管・打楽器専攻の者が管弦楽を履修したときに指定された者のみ履修可。
- 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※ 教職課程履修者のみ履修可。
- 指定された者のみ履修可。
- 演奏家コースを希望する学生は履修することが望ましい。
- 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

学科・コース	器楽学科 弦・管・打楽器指導者コース
カリキュラムポリシー	指導者として大切な人間性、社会性を身につけることを目指す。教員、レスナー、吹奏楽指導者などに必要な指導法を実践的に学び、多面的な指導方法を修得する。
ディプロマポリシー	指導の為に必要な専門実技の技術及び音楽的知識を身につけるだけでなく、指導者として大切なことも経験し、実践的かつ応用力豊かな指導活動を行う事ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	17 単位	14 単位	14 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				43 単位以上			
合計 69単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

※()内の数字は弦楽器専攻学生。

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」→「器楽Ⅰ③」→「器楽Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 合奏Ⅲは、弦楽器専攻の者が吹奏楽を、または管・打楽器専攻の者が管弦楽を履修したときに与えられる単位である。後日、掲示により指定された者のみ履修可。
- C 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- D 授業内容に指揮法を含む。
- E この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- F 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- G 指定された者のみ履修可。
- H 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- I 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

学科・コース	器楽学科 弦・管・打楽器演奏家コース
カリキュラムポリシー	実践に必要な基礎能力と幅広い演奏形態に対応できる応用力の向上を目指す。充実したレッスンシステムをはじめ、室内楽、協奏曲、独奏演奏会等、数多くの実践の場を与え、専攻実技に重きを置いたカリキュラムにより演奏家になるための経験を積み、知識、技術を修得する。
ディプロマポリシー	プロフェッショナルな音楽家として必要な知識、技術力を身につけ、多岐にわたる演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	17 単位	15 単位	19 単位	最低 8 単位				最低 4 単位				37 単位以上			
合計 75単位 (A)				最低 12 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」→「器楽Ⅰ③」→「器楽Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 合奏Ⅲは、弦楽器専攻の者が吹奏楽を、または管・打楽器専攻の者が管弦楽を履修したときに与えられる単位である。後日、掲示により指定された者のみ履修可。
- C 「日本音楽概論Ⅰ」「日本音楽概論Ⅱ」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- D この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- E 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- F 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- G 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

学科・コース	器楽学科 ポピュラー音楽コース
カリキュラムポリシー	専攻楽器の演奏やアンサンブルアレンジ、オリジナル曲の制作などに応用できる実践的な音楽力の向上を目指す。ピアノ、ギター、ベース、ドラムスから主専攻を選択し、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて基礎から高度な専門技術までを学ぶ。個人およびグループレッスンで専門家として必要な感性を学び演奏力を修得する。またポピュラー音楽の歴史、コードプログレッション、アレンジ法などを修得する。
ディプロマポリシー	演奏、アンサンブル、作曲・編曲、録音、ライブといったポピュラー音楽に必要な音楽力を身につけるとともに、ポピュラー音楽界を中心に自作自演のできるアーティストとして、次世代のポピュラー音楽をリードする個性豊かな演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				専門科目				外国語科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	21 単位	14 単位	15 単位	最低 2単位	最低 4 単位			最低 8 単位				36 単位以上			
合計 74 単位(A)				最低 14 単位(B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「ポピュラー実技①」→「ポピュラー実技②」→「ポピュラー実技③」→「ポピュラー実技④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。△印の「音楽基礎研究」「和声学①」はどちらか1つが教職必修。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ※※印は単位数に相当するコマ数を集中的に実施する科目(集中科目)
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。
- 「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。
- ポピュラー実技およびポピュラー演奏法について履修できる楽器は次のとおり
ポピュラーピアノで受験＝ポピュラーピアノ
インストゥルメンツ(ギター)で受験＝ギター
インストゥルメンツ(ベース)で受験＝ベース
インストゥルメンツ(ドラムス)で受験＝ドラムス

【ポピュラー・ジャズピアノ演習について】

- ポピュラーピアノが主専攻の者はポピュラー・ジャズピアノ演習履修不可。

【インストゥルメンツ演習について】

- 履修できる楽器は次のとおり
サクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムス
- 「ポピュラー実技①～④」と「インストゥルメンツ演習①～②」で楽器の重複はできない。
- 「インストゥルメンツ演習②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。

【右表中の注意事項】

- A 教職課程の「作曲編曲法」を含む
- B 教職課程としていずれかの科目を選択
- C 同学期同時限に履修すること
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- E 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。
- F 指定された学生(ピアノ初心者)は「鍵盤演奏表現Ⅰ」を1年次に履修しなければならない。
この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

器楽学科 ポピュラー音楽コース

	1年				2年				3年				4年						
	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意			
必修	専門科目	ボイジャー実技①	6		ボイジャー実技②	6			ボイジャー実技③	6			ボイジャー実技④	6					
	共通科目	ボイジャー演奏法①	2		ボイジャー演奏法②	2			ボイジャー演奏法③	2			ボイジャー演奏法④	2					
選択必修	専門科目	アンサンブル①	2		アンサンブル②	2			アンサンブル③	4			アンサンブル④	4					
		ボイジャー作曲・編曲法①	4	A	ボイジャー作曲・編曲法②	4			ボイジャー作曲・編曲法③	4			ボイジャー作曲・編曲法④	4					
		サウンドクリエイ①	4		サウンドクリエイ②	4			ソングライティング演習①	2			ソングライティング演習②	2					
		リズムトレーニング	1※																
		芸術特別研究①	1		芸術特別研究②	1													
		セルフディベロップメント	2※		音楽人基礎②	2													
		音楽人基礎①	2																
		ボイジャー・ジャズピアノ演習①	2		スタジオレコーディング I	1※※				ボイジャー作曲・編曲法③	4			ボイジャー作曲・編曲法④	4				
		インストゥルメンツ演習①	2		ライブ実習 I	1※※				スタジオレコーディング II	1※※			スタジオレコーディング III	1※※				
		ヴォーカル演習①	2		ライブ実習 II	1※※				ライブ実習 III	1※※			ライブ実習 V	1※※				
		器楽 II ①	3							ライブ実習 IV	1※※			ライブ実習 VI	1※※				
		基礎英語	4																
		初級英語	4																
		中級英語 I	2																
中級英語 II	2																		
中級英語 III	2																		
中級英語 IV	2																		
中級英語 V	2																		
上級英語 I	2																		
上級英語 II	2																		
上級英語 III	2																		
上級英語 IV	2																		
選択	専門科目	ピアノ II ①	3	○	F	ピアノ II ②	3		E	ピアノ II ③	3		E	ピアノ II ④	3		E		
		声乐 II ①	3	○		声乐 II ②	3			声乐 II ③	3			声乐 II ④	3				
		ダンス	2			器楽 II ②	3			器楽 II ③	3			器楽 II ④	3				
		音響機器演習 I	2※			ボイジャー・ジャズピアノ演習②	2			伴奏法 II	2	○							
		音楽基礎研究	4	△		インストゥルメンツ演習②	2			海外研修 II	3								
		合唱①	2	○		ヴォーカル演習②	2			海外研修 IV	3								
		和声学①	4	△		サウンドクリエイ②	4			海外研修 V	3								
		音楽産業概論 I	2※			音響機器演習 III	2※			合奏 II	2	○							
		音楽産業概論 II	2※			A&Rプロデュース	4			指揮法	2	○							
						録音制作 III	2※												
						リミック②	2				日本伝統音楽演習 I	1※	○	C	フィールド・インターンシップ②	2			
						日本音楽概論 I	2※	○			日本伝統音楽演習 II	1※	○	C					
						日本音楽概論 II	2※				スコアリーディング II	2							
						オペラ史	4				環境音楽論	4							
						総合演習	2※				音楽情報論	4							
						民族音楽概論 I	2※	○			鍵盤演奏表現 II	2							
						民族音楽概論 II	2※				共同講義 V	2※			D				
						音楽美学	4				共同講義 VI	2※			D				
						器楽史	4				共同講義 VII	2※			D				
						鍵盤音楽史 II	4				共同講義 VIII	2※			D				
						鍵盤演奏表現 III	2				フィールド・インターンシップ①	2							
						鍵盤演奏表現 IV	2												
						音楽コミュニケーション②	1												
						共同講義 I	2※			D									
						共同講義 II	2※			D									
						共同講義 III	2※			D									
						共同講義 IV	2※			D									
						社会福祉概論 I	2※												
						社会福祉概論 II	2※												
						演劇史	2※												
						音楽人研究	2												
		選択	共通科目	音楽活動研究 I	1														
				音楽活動研究 II	1														
				音楽活動研究 III	1														
				音楽活動研究 IV	1														
				西洋音楽史	4	○													
				リミック①	2														
				西洋文化史 I	2※														
				西洋文化史 II	2※														
				哲学	2※														
				文学	2※														
				日本国憲法	2※	○													
				経済学 I	2※														
				経済学 II	2※														
				美術史 I	2※														
				美術史 II	2※														
心理学 I	2※																		
心理学 II	2※																		
情報機器演習	2※			○															
体育理論	2※			○															
体育実技	1※			○															
音響学	2※																		
音声学	2※																		
鍵盤音楽史 I	4																		
舞台芸術概論	4																		
鍵盤演奏表現 I	2			F															
総合教養	2※																		
ボランティア論	2※																		
音楽コミュニケーション①	1																		
障がい児教育概論	2※																		
音楽療法概説	2※																		
基本ソルフェージュ(初級)	2	○	B																
基本ソルフェージュ(中級)	2	○	B																
基本ソルフェージュ(上級)	2	○	B																
視唱ソルフェージュ(初級)	2	○	B																
視唱ソルフェージュ(中級)	2	○	B																
視唱ソルフェージュ(上級)	2	○	B																
聴音ソルフェージュ(初級)	2	○	B																
聴音ソルフェージュ(中級)	2	○	B																
聴音ソルフェージュ(上級)	2	○	B																
総合ソルフェージュ(初級)	2	○	B																
総合ソルフェージュ(中級)	2	○	B																
総合ソルフェージュ(上級)	2	○	B																
鍵盤ソルフェージュ(初級)	2	○	B																
鍵盤ソルフェージュ(中級)	2	○	B																
鍵盤ソルフェージュ(上級)	2	○	B																
日本文化史	2※																		
外国語科目	基礎イタリア語	4			初級イタリア語	4			中級イタリア語 I	2			上級イタリア語	2					
	基礎ドイツ語	4			初級ドイツ語	4			中級イタリア語 II	2			上級ドイツ語	2					
	基礎フランス語	4			初級フランス語	4			中級ドイツ語 I	2			上級フランス語	2					

学科・コース	声楽学科 声楽コース
カリキュラムポリシー	西欧文化に関する深い見識を持つことを目指す。ベルカント唱法の基礎技術を生かし、オペラ演習や海外研修、オペラ公演実習を通じて、オペラ歌手として必要な要素を幅広く修得する。
ディプロマポリシー	ベルカント唱法の基礎技術を身につけるとともに、オペラや海外研修を通し西欧文化に関する深い見識を持つことができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修				選択			
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
28 単位	24 単位	19 単位	13 単位	視唱 ソルフェ 2単位	最低 2 単位			36 単位以上			
合計 84 単位 (A)				最低 4 単位 (B)				124単位 - (A) - (B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「声楽 I ①」→「声楽 I ②」→「声楽 I ③」→「声楽 I ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「日本音楽概論 I」「日本音楽概論 II」は前期、後期と続けて履修することが望ましい。
- C 日本歌曲、マドリガル各80分前期のみ、ドイツ歌曲80分後期のみの実習授業。
前・後期合わせて3単位。1分野でも落とすと次年度はまた3分野とも受講する。
- D この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- E 「日本伝統音楽演習 I」「日本伝統音楽演習 II」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- F メサイア公演に出演すること。
- G 日本歌曲、ドイツ歌曲、マドリガルより分野を選択。
- H 視唱ソルフェージュ(2単位)は必修。その他にソルフェージュ科目を2単位以上修得すること
- I 「共同講義 I～VIII」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- J 教職課程履修者は「ピアノ II ③・④」を履修することが望ましい。

学科・コース	声楽学科 ジャズコース
カリキュラムポリシー	ジャズセッション、オリジナルソングの制作などに応用できる実践的な音楽力の向上を目指す。正統的なジャズをベースに、基礎から高度な専門技術までを学ぶ。個人およびグループレッスンでジャズの歌唱に必要な感性を学び演奏力を修得する。またジャズの歴史やコードプログレッション、アレンジ法などを修得する。
ディプロマポリシー	実践的な演奏体験を基に、ステージ構成や演出などコンサートやライブの全体像を理解できるようになる。また、ジャズ界を中心に自作自演もできるジャズヴォーカリストとして、実践的な演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				専門科目				外国語科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
24 単位	21 単位	14 単位	15 単位	最低 2単位	最低 4 単位			最低 8 単位				36 単位以上			
合計 74 単位(A)				最低 14 単位(B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「ジャズ実技①」→「ジャズ実技②」→「ジャズ実技③」→「ジャズ実技④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。△印の「音楽基礎研究」「和声学①」はどちらか1つが教職必修。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ※※印は単位数に相当するコマ数を集中的に実施する科目(集中科目)
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。
- 「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。
- ジャズ実技およびジャズ演奏法について履修できる楽器は次のとおり。
ヴォーカルで受験＝ジャズヴォーカル

【ヴォーカル演習について】

- ジャズヴォーカルが主専攻の者はヴォーカル演習履修不可。

【インストゥルメンツ演習について】

- 履修できる楽器は次のとおり
サクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムス
- 「ジャズ実技①～④」と「インストゥルメンツ演習①～②」で楽器の重複はできない。
- 「インストゥルメンツ演習②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。

【右表中の注意事項】

- 教職課程の「作曲編曲法」を含む
- 教職課程としていずれかの科目を選択
- 同学期同時限に履修すること
- 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。
- 指定された学生(ピアノ初心者)は「鍵盤演奏表現Ⅰ」を1年次に履修しなければならない。
この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

声楽学科

ジャズコース

	1年				2年				3年				4年				
	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意	科目	単位	教職	注意	
必修	ジャズ実技①	6			ジャズ実技②	6			ジャズ実技③	6			ジャズ実技④	6			
	ジャズ演奏法①	2			ジャズ演奏法②	2			ジャズ演奏法③	2			ジャズ演奏法④	2			
専門科目	アンサンブル①	2			アンサンブル②	2			アンサンブル③	4			アンサンブル④	4			
	ボビュラー作曲・編曲法①	4		A	ボビュラー作曲・編曲法②	4			ソングライティング演習①	2			卒業ライブ	1※※			
	サウンドクワイエット①	4			ボビュラー音楽概論	4							ソングライティング演習②	2			
	リズムトレーニング	1※															
	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1											
共通科目	セルフディベロップメント	2※			音楽人基礎②	2											
選択必修	ボビュラー・ジャズピアノ演習①	2			スタジオレコーディング I	1※※			ボビュラー作曲・編曲法③	4			ボビュラー作曲・編曲法④	4			
	インストゥルメンツ演習①	2			ライブ実習 I	1※※			スタジオレコーディング II	1※※			スタジオレコーディング III	1※※			
	ヴォーカル演習①	2			ライブ実習 II	1※※			ライブ実習 III	1※※			ライブ実習 V	1※※			
	器楽 II ①	3							ライブ実習 IV	1※※			ライブ実習 VI	1※※			
	基礎英語	4															
	初級英語	4															
	中級英語 I	2															
	中級英語 II	2															
	中級英語 III	2															
	中級英語 IV	2															
	中級英語 V	2															
	上級英語 I	2															
	上級英語 II	2															
上級英語 III	2																
上級英語 IV	2																
専門科目	ピアノ II ①	3	○	F	ピアノ II ②	3		E	ピアノ II ③	3		E	ピアノ II ④	3		E	
	声乐 II ①	3	○		声乐 II ②	3			声乐 II ③	3			声乐 II ④	3			
	ダンス	2			器楽 II ②	3			器楽 II ③	3			器楽 II ④	3			
	音響機器演習 I	2※			ボビュラー・ジャズピアノ演習②	2			伴奏法 II	2	○						
	音楽基礎研究	4	△		インストゥルメンツ演習②	2			海外研修 II	3							
	合唱①	2	○		ヴォーカル演習②	2			海外研修 IV	3							
	和声学①	4	△		サウンドクワイエット②	2			海外研修 V	3							
	音楽産業概論 I	2※			音響機器演習 III	2※			合奏 II	2	○						
	音楽産業概論 II	2※			A&Rプロデュース	4			指揮法	2	○						
					録音制作 III	2※											
	音楽活動研究 I	1			リミック②	2			日本伝統音楽演習 I	1※	○	C	フィールドインターンシップ②	2			
	音楽活動研究 II	1			日本音楽概論 I	2※	○		日本伝統音楽演習 II	1※	○	C					
	音楽活動研究 III	1			日本音楽概論 II	2※			スコアリーディング II	2							
	音楽活動研究 IV	1			オペラ史	4			環境音楽論	4							
	西洋音楽史	4	○		総合演習	2※			音楽情報論	4							
	リミック①	2			民族音楽概論 I	2※	○		鍵盤演奏表現 II	2							
	西洋文化史 I	2※			民族音楽概論 II	2※			共同講義 V	2※		D					
	西洋文化史 II	2※			音楽美学	4			共同講義 VI	2※		D					
	哲学	2※			器楽史	4			共同講義 VII	2※		D					
文学	2※			鍵盤音楽史 II	4			共同講義 VIII	2※		D						
日本国憲法	2※	○		鍵盤演奏表現 III	2			フィールドインターンシップ①	2								
経済学 I	2※			鍵盤演奏表現 IV	2												
経済学 II	2※			音楽コミュニケーション②	1												
美術史 I	2※			共同講義 I	2※		D										
美術史 II	2※			共同講義 II	2※		D										
心理学 I	2※			共同講義 III	2※		D										
心理学 II	2※			共同講義 IV	2※		D										
情報機器演習	2※	○		社会福祉概論 I	2※												
体育理論	2※	○		社会福祉概論 II	2※												
体育実技	1※	○		演劇史	2※												
音響学	2※			音楽人研究	2												
音声学	2※																
鍵盤音楽史 I	4																
舞台芸術概論	4																
鍵盤演奏表現 I	2		F														
総合教養	2※																
ボランティア論	2※																
音楽コミュニケーション①	1																
障がい児教育概論	2※																
音楽療法概説	2※																
基本ソルフェージュ(初級)	2	○	B														
基本ソルフェージュ(中級)	2	○	B														
基本ソルフェージュ(上級)	2	○	B														
視唱ソルフェージュ(初級)	2	○	B														
視唱ソルフェージュ(中級)	2	○	B														
視唱ソルフェージュ(上級)	2	○	B														
聴音ソルフェージュ(初級)	2	○	B														
聴音ソルフェージュ(中級)	2	○	B														
聴音ソルフェージュ(上級)	2	○	B														
総合ソルフェージュ(初級)	2	○	B														
総合ソルフェージュ(中級)	2	○	B														
総合ソルフェージュ(上級)	2	○	B														
鍵盤ソルフェージュ(初級)	2	○	B														
鍵盤ソルフェージュ(中級)	2	○	B														
鍵盤ソルフェージュ(上級)	2	○	B														
日本文化史	2※																
外国語科目	基礎イタリア語	4			初級イタリア語	4			中級イタリア語 I	2			上級イタリア語	2			
	基礎ドイツ語	4			初級ドイツ語	4			中級イタリア語 II	2			中級ドイツ語	2			
	基礎フランス語	4			初級フランス語	4			中級ドイツ語 I	2			上級ドイツ語	2			
									中級ドイツ語 II	2							
									中級フランス語	2			上級フランス語	2			

学科・コース	声楽学科 ポピュラー音楽コース
カリキュラムポリシー	演奏やアンサンブルアレンジ、オリジナルソングの制作などに応用できる実践的な音楽力の向上を目指す。ポピュラーヴォーカルの様々なジャンルについて基礎から高度な専門技術までを学ぶ。個人およびグループレッスンで専門家として必要な感性を学び演奏力を修得する。またポピュラー音楽の歴史、コードプログレッション、アレンジ法などを修得する。
ディプロマポリシー	演奏、アンサンブル、作曲・編曲、録音、ライブといったポピュラー音楽に必要な音楽力を身につけるとともに、ポピュラー音楽界を中心に自作自演のできるポピュラーヴォーカリストとして、次世代のポピュラー音楽をリードする個性豊かな演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択				
				専門科目				外国語科目								
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	
24 単位	21 単位	14 単位	15 単位	最低 2単位	最低 4 単位				最低 8 単位				36 単位以上			
合計 74 単位(A)				最低 14 単位(B)								124単位-(A)-(B)				

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「ポピュラー実技①」→「ポピュラー実技②」→「ポピュラー実技③」→「ポピュラー実技④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。△印の「音楽基礎研究」「和声学①」はどちらか1つが教職必修。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ※※印は単位数に相当するコマ数を集中的に実施する科目(集中科目)
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。
- 「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。
- ポピュラー実技およびポピュラー演奏法について履修できる楽器は次のとおり
ヴォーカルで受験=ポピュラーヴォーカル

【ヴォーカル演習について】

- ポピュラーヴォーカルが主専攻の者はヴォーカル演習履修不可。

【インストゥルメンツ演習について】

- 履修できる楽器は次のとおり
サクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムス
- 「ポピュラー実技①～④」と「インストゥルメンツ演習①～②」で楽器の重複はできない。
- 「インストゥルメンツ演習②」を履修する際に楽器変更することが可能(変更は1回限りとする)。

【右表中の注意事項】

- 教職課程の「作曲編曲法」を含む
- 教職課程としていずれかの科目を選択
- 同学期同時限に履修すること
- 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。
- 指定された学生(ピアノ初心者)は「鍵盤演奏表現Ⅰ」を1年次に履修しなければならない。
この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

学科・コース	音楽芸術運営学科 アートマネジメントコース
カリキュラムポリシー	舞台芸術活動を成功に導くためのリーダーや芸術運営のスペシャリストとなることを目指す。舞台や音楽に対する知識・視野を広げ、企画・運営・制作の基礎を学ぶとともに、海外研修で国際性を身につける。実習・インターンシップを通じて芸術運営の現場を知り、芸術運営演習や卒業研究にて専門力・応用力を修得する。
ディプロマポリシー	芸術文化をマネジメントすることの意義と重要性を認識し、幅広い国際的な見識、自己の美学を持ったリーダー、スペシャリストとして芸術運営を実践することができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				専門科目				外国語科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
27 単位	24 単位	10 単位	6 単位	最低 7 単位				最低 10 単位				40 単位以上			
合計 67 単位 (A)				最低 17 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノⅡ①」→「ピアノⅡ②」→「ピアノⅡ③」→「ピアノⅡ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- 「教職」欄に△1・△2・△3印がついている科目は、それぞれの中でいずれか1科目教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「和声学①」の履修を希望する学生は、参考試験の結果により「音楽基礎研究」を履修しなければならないことがある。この場合、「和声学①」は2年次に履修する場合がある。
- B 「芸術運営実習Ⅰ」の既修者のみ履修可。
- C この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- D 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- E 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- F 指定された学生(ピアノ初心者)は鍵盤演奏表現Ⅰを1年次に履修しなければならない。
この場合、ピアノⅡ①は2年次に履修可。
- G 「卒業論文」については在学年数が3年間経過している者のみ履修可。
- H 4科目から最低4単位選択必修。
- I 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

【ピアノ・声楽・器楽 履修上の注意】

- 1年次は1科目のみ選択必修(レッスン担当教員決定の為、入学前に履修希望をとる)。
ただし、「鍵盤演奏表現Ⅰ」履修者は、「声楽」または「器楽」を履修可。
- 2年次には、最大2科目まで選択可(新規・継続いずれの場合も同様)。
- 2年次以降の履修は、前年度まで履修していた科目(器楽の場合は同一楽器)を継続履修する場合のみ選択可。(原則として、3年時以降の新規科目履修および楽器変更は認めない)
- 2年次以降に新規(又は再履修)で履修登録する科目は、それぞれ①から順に履修すること。

学科・コース	音楽芸術運営学科 舞台スタッフコース
カリキュラムポリシー	音楽を理解し、舞台作品創造の考え方、方向性を身につけた、将来各分野でリーダーと成り得るクリエイターとなることを目指す。舞台及び舞台芸術に関する基礎知識や、舞台制作に必要な基礎技術を身につけるとともに、実際に学内公演に参加することにより舞台制作の現場を知り、公演実習などを通じ各分野のリーダーとなり得る知識・技術・応用力を修得する。
ディプロマポリシー	舞台芸術に対する各分野の専門的な知識・技術のみならず、舞台作品創造の考え方や方向性などの幅広い知識を身につけて舞台制作を実践することができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修												選択			
				専門科目				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
23 単位	28 単位	20 単位	16 単位	最低 7 単位				最低 8 単位				最低 2 単位				20 単位以上			
合計 87 単位 (A)				最低 17 単位 (B)												124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「芸術特別研究①」→「芸術特別研究②」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- 「教職」欄に△1印がついている科目は、いずれか1科目教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。
- 「公演実習Ⅰ～Ⅶ」については、クラス全体会で資料を受け取り、説明を受けること。

【右表中の注意事項】

- A 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- B 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- C 指定された学生(ピアノ初心者)は鍵盤演奏表現Ⅰを1年次に履修しなければならない。
この場合、ピアノⅡ①は2年次に履修可。
- D 「公演実習Ⅰ」の既修者のみ履修可。
- E 「卒業制作作品研究」については在学年数が3年間経過している者のみ履修可。
- F 4科目から最低4単位選択必修。
- G 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

【ピアノ・声楽・器楽 履修上の注意】

- 1年次は1科目のみ選択必修(レッスン担当教員決定の為、入学前に履修希望をとる)。
ただし、「鍵盤演奏表現Ⅰ」履修者は、「声楽」または「器楽」を履修可。
- 2年次には、最大2科目まで選択可(新規・継続いずれの場合も同様)。
- 2年次の履修は、前年度まで履修していた科目(器楽の場合は同一楽器)を継続履修する場合のみ選択可。(原則として、3年時以降の新規科目履修および楽器変更は認めない)
- 2年次に新規(又は再履修)で履修登録する科目は、それぞれ①から順に履修すること。

学科・コース	音楽芸術運営学科 音楽療法コース
カリキュラムポリシー	音楽療法の専門知識と実践力を兼ね備えた音楽療法士の育成を目指す。音楽実技、音楽療法の理論、技能、関連領域の知識を基礎として、総合的な臨床技術を修得する。
ディプロマポリシー	音楽療法の技能と対象領域の知識を身につけ、対象者に適した音楽療法の実践ができるようになる。卒業論文を通して音楽療法の理解を深め、研究ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択			
				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
31 単位	31 単位	16 単位	8 単位	最低 8 単位				最低 2 単位				28 単位以上			
合計 86 単位 (A)				最低 10 単位 (B)								124単位-(A)-(B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「ピアノⅡ①」→「ピアノⅡ②」→「ピアノⅡ③」→「ピアノⅡ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 3年次以降は「施設実習Ⅱ・Ⅲ」の時間により、履修時間割に制限が生じる場合がある。
- 1・2年次音楽療法必修専門科目「音楽療法概説」、「音楽療法各論Ⅰ・Ⅱ」、「音楽療法演習Ⅱ」の4科目全てを修得した者が「施設実習Ⅱ」を履修できる。
- 1・2・3年次音楽療法必修専門科目「音楽療法理論と技法」、「音楽療法各論Ⅲ」、「発達心理学」、「臨床医学各論Ⅰ」、「臨床心理学Ⅰ」、「社会福祉概論Ⅰ」の6科目全てを修得した者が「施設実習Ⅲ」を履修できる。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- 授業は講義科目と夏期の集中的な学外演習を合わせた形態で行う。
- 本学大学院に進学希望の者は、英語を8単位以上履修することが望ましい。
- 授業内容に伴奏法Ⅱを含む。
- 授業内容に合奏Ⅱを含む。
- この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- 指定された学生(ピアノ初心者)は鍵盤演奏表現Ⅰを1年次に履修しなければならない。
この場合、ピアノⅡ①は2年次に履修可。
- 「卒業論文(原著講読含む)」については在学年数が3年間経過している者のみ履修可。
- 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

【ピアノ・声楽・器楽 履修上の注意】

- 1年次の「ピアノⅡ①」「声楽Ⅱ①」は必修。
- 「器楽Ⅱ①」は、1年次から選択履修できる(すなわち、最大3科目まで同時履修可)。
(レッスン担当教員決定のため、1年次の履修に関しては入学前に希望をとる。その際、楽器によっては希望どおり配分できない場合がある)
- 3年次以降の実技履修は、すべて選択科目となる。その場合、「器楽Ⅱ」に関しては、同一楽器を2年以上継続して履修するものとし、楽器変更は原則として1回のみ認める。
- 2年時以降に新規に(または再履修で)履修する場合は、履修条件にしたがって各科目の①から順に履修すること。
- 音楽療法コースの特性から、いずれの科目(または楽器)も原則として2年以上継続して履修することが望ましい。

学科・コース	音楽芸術運営学科 ミュージカルコース
カリキュラムポリシー	ミュージカルを支える三要素——歌・ダンス・演劇を基礎から学び、表現力の向上を目指す。これらを総合した「ミュージカル実習」を通じて、ミュージカル界が必要とする多様なスタイルに適応できる能力を修得する。
ディプロマポリシー	自己の資質・能力について、的確な自己認識を身につけ、俳優として、日本の、そして世界のミュージカルシーンの中で適切な居場所を見つけることが出来、活躍出来るようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修								選択							
				専門科目				外国語科目								共通科目			
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
29 単位	23 単位	22 単位	24 単位	3単位 〔ピアノⅡ①〕 履修者)				最低 8 単位				最低 4 単位 〔鍵盤演奏表現Ⅰ〕履修者は 6単位)				11単位または12単位以上			
合計 98 単位 (A)				最低 14単位 または 15単位 (B)								124単位-(A)-(B)							

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「舞踊演習Ⅰ①」→「舞踊演習Ⅰ②」→「舞踊演習Ⅰ③」→「舞踊演習Ⅰ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- 「教職」欄に△1印がついている科目は、それぞれの中でいずれか1科目教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「和声学①」の履修を希望する学生は、参考試験の結果により「音楽基礎研究」を履修しなければならないことがある。この場合、「和声学①」は2年次に履修する場合がある。
- B この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- C 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- E 「ピアノⅡ①」または「鍵盤演奏表現Ⅰ」のいずれか1科目選択必修。ただし、
「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- F 教職課程履修者は「ピアノⅡ②・③・④」を履修することが望ましい。

		1年				2年				3年				4年					
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意		
必修	専 門 科 目	演技演習Ⅰ①	2			演技演習Ⅰ②	2			舞踊演習Ⅰ③	2			舞踊演習Ⅱ④	2				
		演技演習Ⅱ①	2			演技演習Ⅱ②	2			舞踊演習Ⅱ③	2			舞踊演習Ⅲ④	2				
		演技基礎①	2			演技基礎②	2			舞踊演習Ⅲ③	2			ヴォーカルⅠ④	4				
		狂言①	2			舞踊演習Ⅰ②	2			ヴォーカルⅠ③	4			ミュージカル実習Ⅰ②	12				
		舞踊演習Ⅰ①	2			舞踊演習Ⅱ②	2			ミュージカル実習Ⅰ①	12			卒業作品研究	4				
		舞踊演習Ⅱ①	2			舞踊演習Ⅲ②	2												
		舞踊演習Ⅲ①	2			ヴォーカルⅠ②	4												
		ヴォーカルⅠ①	4			ヴォーカルⅡ②	2												
		ヴォーカルⅡ①	2			ミュージカル史	2※												
		表現基礎	2※																
共通 科目		芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1												
		西洋音楽史	4			音楽人基礎②	2												
		音楽人基礎①	2																
選択 必修	専 門 科 目	ピアノⅡ①	3		E	演劇史	2※												
	外 国 語 科 目		基礎英語	4															
			初級英語	4															
			中級英語Ⅰ	2															
			中級英語Ⅱ	2															
			中級英語Ⅲ	2															
			中級英語Ⅳ	2															
			中級英語Ⅴ	2															
			上級英語Ⅰ	2															
			上級英語Ⅱ	2															
			上級英語Ⅲ	2															
		上級英語Ⅳ	2																
	共 通 科 目		基本ソルフェージュ(初級)	2															
			基本ソルフェージュ(中級)	2															
			基本ソルフェージュ(上級)	2															
			視唱ソルフェージュ(初級)	2															
			視唱ソルフェージュ(中級)	2															
			視唱ソルフェージュ(上級)	2															
		聴音ソルフェージュ(初級)	2																
		聴音ソルフェージュ(中級)	2																
		聴音ソルフェージュ(上級)	2																
		総合ソルフェージュ(初級)	2																
	総合ソルフェージュ(中級)	2																	
	総合ソルフェージュ(上級)	2																	
	鍵盤ソルフェージュ(初級)	2																	
	鍵盤ソルフェージュ(中級)	2																	
	鍵盤ソルフェージュ(上級)	2																	
	鍵盤演奏表現Ⅰ	2			E														
専 門 科 目		和声学①	4	△1	A	和声学②	4			ピアノⅡ③	3		F	ピアノⅡ④	3		F		
		音楽基礎研究	4	△1	A	ピアノⅡ②	4		F	伴奏法Ⅱ	2			ミュージカル実習Ⅱ②	4				
		合唱①	2	○		合唱②	3			合奏Ⅱ	2	○		舞踊演習Ⅰ④	2				
		ヴォーカルⅢ①	2			ヴォーカルⅢ②	2			指揮法	2	○		合奏Ⅳ④	2				
		合奏Ⅳ①	2			民族音楽概論Ⅰ	2※	○		ミュージカル実習Ⅱ①	4								
						民族音楽概論Ⅱ	2※			海外研修Ⅱ	3								
						日本音楽概論Ⅰ	2※	○		演出論	4								
						日本音楽概論Ⅱ	2※			海外研修Ⅳ	3								
						狂言②	2			海外研修Ⅴ	3								
						合奏Ⅳ②	2			合奏Ⅳ③	2								
	共 通 科 目		リトミック①	2			リトミック②	2			和声学③	4			フィート'インターンシップ②	2			
			哲学	2※			管弦楽概論	4			対位法Ⅱ	4		B					
			文学	2※			楽式論	4			日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	C					
			西洋文化史Ⅰ	2※			音楽美学	4			日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○	C					
			西洋文化史Ⅱ	2※			総合演習	2※			作曲・編曲法①	2	○	B					
			美術史Ⅰ	2※			器楽史	4			スコアリーディングⅡ	2							
			美術史Ⅱ	2※			鍵盤音楽史Ⅱ	4			環境音楽論	4							
			日本国憲法	2※	○		オペラ史	4			音楽情報論	4							
			経済学Ⅰ	2※			コンピュータ音楽概論	4			鍵盤演奏表現Ⅱ	2							
		経済学Ⅱ	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2			共同講義Ⅴ	2※		D						
		心理学Ⅰ	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2			共同講義Ⅵ	2※		D						
		心理学Ⅱ	2※			音楽コミュニケーション②	1			共同講義Ⅶ	2※		D						
		情報機器演習	2※	○		共同講義Ⅰ	2※		D	共同講義Ⅷ	2※		D						
		体育理論	2※	○		共同講義Ⅱ	2※		D	フィート'インターンシップ①	2		D						
		体育実技	1※	○		共同講義Ⅲ	2※		D										
		音響学	2※			共同講義Ⅳ	2※		D										
		音声学	2※			社会福祉概論Ⅰ	2※												
		鍵盤音楽史Ⅰ	4			社会福祉概論Ⅱ	2※												
		舞台芸術概論	4			音楽産業概論Ⅰ	2※												
		音楽活動研究Ⅰ	1			音楽産業概論Ⅱ	2※												
		音楽活動研究Ⅱ	1			音楽人研究	2												
		音楽活動研究Ⅲ	1																
		音楽活動研究Ⅳ	1																
		総合教養	2※																
		ボランティア論	2※																
		音楽コミュニケーション①	1																
		障がい児教育概論	2※																
		音楽療法概説	2※																
		日本文化史	2※																
外 国 語 科 目		基礎イタリア語	4			初級イタリア語	4			中級イタリア語Ⅰ	2			上級イタリア語	2				
										中級イタリア語Ⅱ	2								
		基礎ドイツ語	4			初級ドイツ語	4			中級ドイツ語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2				
										中級ドイツ語Ⅱ	2								
	基礎フランス語	4			初級フランス語	4			中級フランス語	2			上級フランス語	2					

学科・コース	音楽芸術運営学科 バレエコース
カリキュラムポリシー	バレエ指導者として必要な技術的向上を目指す。4年間を通じて、バレエ・テクニックの技術的向上を図るとともに、クラシックを中心とした様々な舞踊形態を学ぶことで、表現力・創造力を修得する。また解剖学、バレエ史、舞踊心理学等の学習によって、専門的知識を獲得し、また実践的な学習を通じてバレエ指導法を修得する。
ディプロマポリシー	バレエ・テクニックにおいて、基礎から上級までの確固たる知識を身につけ、バレエ学習者の多様化にも対応したバレエ指導ができるようになる。様々なバレエシーンをコーディネートできるようになる。

【卒業要件単位数】

必修				選択必修												選択			
				専門科目				外国語科目				共通科目							
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
32 単位	29 単位	18 単位	14 単位	3単位 (「ピアノⅡ①」履修者)				最低 8 単位				2単位 (「鍵盤演奏表現Ⅰ」履修者)				20単位または21単位以上			
合計 93 単位 (A)				最低 10単位 または 11単位 (B)												124単位 - (A) - (B)			

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②③④の順番で履修する。
例)「バレエ・クラスⅠ①」→「バレエ・クラスⅠ②」→「バレエ・クラスⅠ③」→「バレエ・クラスⅠ④」
①②等を、同時に履修することは認めない。
- 配当年度を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。
例)2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- 「教職」欄に△1・△2印がついている科目は、それぞれの印の中でいずれか1科目が教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 教職課程履修者は62ページを参照すること。
- 学芸員課程履修者は65ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は66ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「和声学①」の履修を希望する学生は、参考試験の結果により「音楽基礎研究」を履修しなければならないことがある。この場合、「和声学①」は2年次に履修する場合がある。
- B この科目を履修するためには「和声学②」の単位を修得していることが望ましい。
- C 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅷ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- E 「ピアノⅡ①」または「鍵盤演奏表現Ⅰ」のいずれか1科目選択必修。ただし、「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- F 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

17 資格課程履修にあたっての注意

資格課程「教職／学芸員／社会教育主事」履修にあたっては以下の点に注意すること

- ① 各課程の履修を希望する者は、1年次に所定の『課程履修願』を提出すること。
 - ※『課程履修願』は各課程のオリエンテーション時に配付するので必ず参加すること。
 - ※各課程の登録にあたっては、課程受講料の納入が必要となります。
 - ※2年次以降に『課程履修願』を提出し各課程の履修を始めた場合、卒業の時点で当該免許を取得できないことがあります。この場合は必ず資格課程担当教員に相談してください。
- ② 各課程の資格取得に必要な授業科目を履修登録すること。
 - ※科目履修にあたっては、この項以降をよく読んで、計画的に履修すること。
 - ※『課程履修願』を提出せずに各課程の授業科目を履修登録しても、履修及び単位は認められないので注意すること。

18 教職課程

<教職課程の目的>

音楽教員としてばかりではなく、教育者として必要な幅広い知識を身につけ、学校教育の場面での指導に対応できる実践的な力量をつける。

【1】教育職員免許状の取得について

教員の資格を得ようとするものは「教育職員免許法」の定めるところに従って、本学で開講する教職課程を修了しなければならない。この課程は、卒業後教職につくために必要な教育の内容を身につけるためのものであり、ただ単に資格だけを得ようとする安易な考えの者は履修すべきでなく、またそれは常に教育実習校においても受け入れが敬遠される。教職課程の履修者は、将来教員になるという強い意志を持って真摯な態度で臨まなければならない。

*介護等の体験の義務づけについて

平成10年4月入学者より小学校及び中学校教諭の普通免許状を取得する希望者は、その取得要件として、盲学校、聾学校、養護学校及び社会福祉施設において、介護等の体験を7日間行ない、その実施証明書を免許状申請する際に添付することが義務づけられた。原則として2年次に介護等体験をしておく必要がある。

*教員免許更新制の導入について

平成19年6月20日に可決・成立した「教育職員免許法及び教育職員公務員特例法の一部を改正する法律」に基づき、平成21年度から10年ごとの教員免許更新制が導入されることになった。これを踏まえたうえで十分な心構えで履修してほしい。

【2】本学において取得できる教員免許状の種類

学部・学科		免許種類	教科
音楽学部	作曲学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽
	器楽学科		
	声楽学科		
音楽専攻科	音楽芸術運営学科	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	
	器楽専攻		
	声楽専攻		

※専攻科の専修免許状取得についての詳細は、一括申請ガイドンス及び申請要領冊子(教務課備付)を参照のこと。

【3】法律で定める科目及び単位数

① 共通科目・外国語科目

「日本国憲法」(2単位)、「体育理論」(2単位)、「体育実技」(1単位)、
「情報機器演習」(2単位)、「外国語(コミュニケーションを含む)」(2単位)

② 教科に関する科目

教科に関する科目		最低必要単位数
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ ・声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む) ・器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む) ・指揮法 ・音楽理論、作曲法(編曲法を含む)及び 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む) 	それぞれにおいて 1単位以上
上記科目の単位数を含め20単位以上を修得する		

※ 共通科目、外国語科目、教科に関する科目については、上記法律で定める単位数の他に、
本学で定める科目及び単位数の修得が必要である(各コース別 教育課程表参照)。

③ 教職に関する科目

次の表に規定する単位(32単位または36単位)を修得しなければならない。

	1年			2年			3年			4年		
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	教育原理	2※		教職論	2※		教科教育法(音楽)②	4	C	教育実習 I	5	E
	教育社会学	2※		教育心理学	2※		学習指導論	4		教育実習 II	3	E
	視聴覚教育論	2※		教科教育法(音楽)①	4	A				教職実践演習 (中・高)	2※	
	生徒指導論	2※		道徳指導法	2※	B						
				特別活動指導法	1※							
				教育相談法	2※	D						

表中の注意事項

A 教職課程の意義及び編成の方法を含む。

B 中学校教諭一種を取得する場合は必修(高等学校教諭一種のみを取得する場合は選択)。

C 教材の活用を含む。

D カウンセリングに関する知識を含む。

E 中学校教諭一種・高等学校教諭一種をあわせて取得する場合は「教育実習 I」、高等学校教諭一種のみを取得する場合は「教育実習 II」を修得すること。

【4】教職課程の履修について

① 1年次末に教職科目「教育原理」「教育社会学」「視聴覚教育論」「生徒指導論」の4科目のうち3科目以上の単位が修得できなかった者は、学科別専門科目や共通科目の取得状況等も考慮して、2年次以降の教職課程履修について進路変更をするように助言指導する。

- ② 1年次教職課程科目の単位を全て修得し、2年次末に、2年次履修分の教職科目「教職論」「教育心理学」「教科教育法(音楽)①」「道徳指導法」「特別活動指導法」の5科目のうち4科目以上の単位修得ができなかった者は学科別専門科目や共通科目の修得状況等も考慮して、3年次以降教職課程履修について、進路変更をするように指導助言する。

【5】教育実習について

A 4年次教育実習科目の受講資格について、次に定める。

① 次のいずれの条件をも満たす者

- ・ 教職課程科目の「教育原理」「生徒指導論」「教職論」「教科教育法(音楽)①」「教科教育法(音楽)②」「学習指導論」の6科目の単位が修得できていること。
- ・ 「日本国憲法」「体育理論」「体育実技」「情報機器演習」及び「外国語(コミュニケーションを含む)」の中から10単位以上修得済みであること。
- ・ 「教科に関する科目」のうち、20単位以上修得していること。

② 教育実習の履修年度末に卒業見込みであり、かつ教育職員免許状取得見込みであること。

③ 原則として4年次に教員採用試験を受験する者。

B 「教育実習」履修に向けて、次に定める。

① 教育実習は、原則として実習生の出身中学校または高等学校で行うものとし、その選定は本人が実習の前年度までに行う。

ただし東京都の公立学校で実習を希望する者については、都教育委員会の申し入れにより都外在学者の受け入れは困難なため、早めに他校を選定のこと。また地域によっては実習生受け入れに関して種々の条件を付けるところもあるので、不備な点のないよう十分な対処が必要である。

② 実習を行う場合は本人が前年度に実習予定校へ内諾書用紙を持って行くこと。

③ ソルフェージュ科目を中級以上(種別は問わない)まで履修していること。

④ 「ピアノⅡ③・④」が履修できないコースに在籍している学生で教職課程を履修している学生は、「鍵盤演奏表現Ⅱ」を履修することが望ましい。

【6】教育職員免許状一括申請手続きについて

① 所定の単位を修得した者には申請により免許状が授与されるが、在學生にあつては卒業の際神奈川県教育委員会に対し本学が一括申請を行う。大学を通じて一括申請を希望する者は、掲示にて連絡するので手続をすること。

所定の申請期限までに手続をしない者は、個人申請となる。

② 一括申請の手続等については教職課程修了見込の卒業年度生を対象に行う。

③ 一括申請しなかった者は、卒業後各自現住所の都道府県の教育委員会へ申請の方法、手続等について問い合わせること。ただし、免許状が交付されるまでに2～3か月を要するので、できるだけ卒業年度に一括申請することが望ましい。

④ 介護等の体験に関する証明書について

中学校教諭免許状の申請に際して「介護等の体験を行った証明書」の添付が平成10年4月入学者より義務づけられた。

この証明書は本人が所持するものであるため、紛失しないよう十分に注意すること。

19 学芸員課程

<学芸員課程の目的>

生涯学習の時代といわれる現代社会において、博物館はそのための重要な機関のひとつである。音楽面における深い専門的知識と高い技術を持ち、さらに多様な博物館の実務に対応できる実践的な力量を持つ人材を育てる。

この課程では、卒業に必要な単位数に加え、学芸員の資格を取得するために博物館学、博物館実習教育学概論など博物館法に定められた「博物館に関する科目」を履修する。博物館・資料館等、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示する機関では、専門職員である学芸員を置くことが法律で義務づけられている。社会教育伸長の波に乗って各地に公私立博物館・資料館等が建設されつつあり、優秀な学芸員の輩出が望まれている。

学芸員課程 開設科目

	1年			2年			3年			4年			
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	
学芸員	必修	生涯学習概論	4	A	視聴覚教育メディア論	2※		博物館学	6	B・C	博物館実習	3	D
		教育学概論			2※								
学芸員	選択必修	文化史	4										
		美術史	4										

A 学芸員課程の「生涯学習概論」は社会教育主事課程の「生涯学習概論」と認定できる。

両課程を同時に履修する場合は、両方の履修登録をすること。

B 学芸員課程の「博物館学」(6単位)は、通年授業4単位の「博物館学」と半期科目2単位からなっているため、両方の履修登録をすること。

C 「博物館学」の単位を修得していない者は、「博物館実習」を履修できない。

D 「博物館実習」は事前事後指導を含む。

20 社会教育主事課程

<社会教育主事課程の目的>

生涯学習時代といわれる現代社会において、多様な学習ニーズを持つ社会教育の現場に対応し、音楽の深い知識と高い技術を兼ね備えた社会教育主事(補)として活躍できる実践的な力量を持つ専門家を育てる。

この課程では、社会教育概論、社会教育計画、社会教育演習および実習等、社会教育法に定められた「社会教育に関する科目」を履修する。社会教育主事は都道府県または市町村の教育委員会の事務局に属し、社会教育を行う者に指導・助言する専門職員であり、指導主事と同様な専門的教育職員である。社会教育主事として任用されるためには、事務局で社会教育主事補として1年以上勤務することが必要である。

しかし、こうした資格の意味だけでなく、この課程を学ぶことは、音楽活動が社会の中で果たす場所、影響力を考える契機となる。音楽教室の講師や演奏活動を志す場合、自分の視野を広げて音楽を考えるために履修することを望む。

社会教育主事課程 開設科目

	1年			2年			3年			4年		
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
社会教育主事 必修	生涯学習概論	4	A	社会教育計画	4		社会教育演習			社会教育特講Ⅱ	4	C
				社会教育特講Ⅰ	4		及び実習	4				
				社会教育特講Ⅲ	4	B						

A 社会教育主事課程の「生涯学習概論」は学芸員課程の「生涯学習概論」と認定できる。

両課程を同時に履修する場合は、両方の履修登録をすること。

B 「社会教育特講Ⅲ」は、以下のa～cいずれかを修得すれば、「社会教育特講Ⅲ」を修得したとみなせる科目である。読み替え科目申請用紙を提出することが必要である。

	授業科目	単位数	教職課程履修者	教職課程履修者以外	備考
a	教育心理学	(2)	○	×	2科目の各単位を合算して4単位
	教育原理	(2)			
b	西洋文化史Ⅰ	(2)	○	○	2科目の各単位を合算して4単位
	西洋文化史Ⅱ	(2)			
c	美術史Ⅰ	(2)	○	○	2科目の各単位を合算して4単位
	美術史Ⅱ	(2)			

C 学芸員課程と社会教育主事課程の両課程を同時に履修している場合、3年次に修得した学芸員課程の通年授業4単位の「博物館学」は、4年次に履修する社会教育主事課程の「社会教育特講Ⅱ」4単位に相当する。ただし、「社会教育特講Ⅱ」の4単位を、通年授業4単位の「博物館学」とすることはできない。

【社会教育主事課程科目の履修登録における注意】

大学または短大を卒業し「社会教育主事課程」の科目の一部を修得して、本学において既修得単位科目の認定を受けた者については、不足の科目のみ修得すればよい。

音楽専攻科 人材養成目的

本学の音楽専攻科は、音楽学部で修得した技術、知識を基礎として、より高度な技術と音楽の専門知識を有する人材を育てる。

音楽専攻科	器楽専攻
カリキュラムポリシー	より高度な技術の修得、また音楽的教養を高めて表現力の向上を目指す。ソロとアンサンブルの形態により専攻実技を中心に専門技術を修得する。また楽曲分析を通じて音楽作品に対する解釈を深める。
ディプロマポリシー	高度な技術と幅広い教養を身につけ、楽曲を論理的に解釈できるようになるとともに、ソロとアンサンブルの形態で演奏表現できるようになる。

※下記の教育課程から必修・選択あわせて30単位以上を修得しなければならない。

器楽専攻	ピアノ			弦管打			オルガン			電子オルガン		
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	器楽実習	9		器楽実習	9		器楽実習	9		器楽実習	9	
	室内楽実習	2		合奏	4		室内楽実習	2		アンサンブル	2	
	楽曲分析	4		楽曲分析	4		合奏 楽曲分析	4 4		電子楽器特講 電子楽器特殊研究 楽曲分析	2 2 4	
選択	鍵盤音楽特殊研究	4		室内楽実習	2		鍵盤音楽特殊研究	4		伴奏法	4	
	伴奏法	4		合奏Ⅲ	2	B	伴奏法	4		ピアノⅡ	3	
	ピアノ指導法	4		ピアノⅡ	3		ピアノⅡ	3		音楽美学	4	
	歌曲研究Ⅰ	4		音楽美学	4		音楽美学	4		演奏解釈法	4	
	歌曲研究Ⅱ	4		演奏解釈法	4		演奏解釈法	4		西洋音楽特講	4	
	歌曲研究Ⅲ	4		西洋音楽特講	4		西洋音楽特講	4		即興演奏	2	
	音楽美学	4		即興演奏	2		即興演奏	2		指揮実習	2	A
	演奏解釈法	4		指揮実習	2	A	指揮実習	2	A	ヨーロッパ社会と芸術	3	
	西洋音楽特講	4		ヨーロッパ社会と芸術	3		ヨーロッパ社会と芸術	3		合奏Ⅳ	2	
	即興演奏	2										
	指揮実習	2	A									
	ヨーロッパ社会と芸術	3										
	合奏Ⅳ	2										

【表中の注意事項】

A 平成23年度開講せず。

B 指定された者のみ履修可。

音楽専攻科	声楽専攻
カリキュラムポリシー	高度なベルカント唱法の技術の向上、また音楽的教養を高めて表現力の向上を目指す。歌曲研究ⅠⅡⅢにおいて、日本、ドイツ、イタリア近代歌曲を学び、幅広い歌曲のレパートリーから個々の分野の歌唱法を修得する。また楽曲分析を通じて音楽作品に対する解釈を深める。
ディプロマポリシー	高度なベルカントの技術と幅広い教養を身につけ、楽曲を論理的に解釈できるようになる。また、日本、ドイツ、イタリア近代歌曲を演奏表現できるようになる。

声楽専攻	声楽		
	科目名	単位	注意
必修	声楽	6	
	歌曲研究Ⅰ	4	
	歌曲研究Ⅱ	4	
	歌曲研究Ⅲ	4	
	楽曲分析	4	
選択	ピアノⅡ	3	
	音楽美学	4	
	西洋音楽特講	4	
	即興演奏	2	
	指揮実習	2	A
	ヨーロッパ社会と芸術	3	

※ 左の教育課程から必修・選択あわせて30単位以上を修得しなければならない。

【表中の注意事項】

A 平成23年度開講せず。

22 教務関係用語の解説

カ	カリキュラム(かりきゅらむ)	教育目的を達成するために選ばれた教育内容、科目の体系。授業科目、単位数、学修の時期等の総称。教育課程。
キ	既修者(きしゅうしゃ)	既に単位を修得している者。単位が取れている者。
ク	クラス指定(くらすしてい)	複数開講されるクラスの中で、グレードやコース等により、自分の入るべきクラスが指定してある科目のこと(別冊子「履修登録に関する注意事項」参照)。
シ	実技レッスン(じつぎれっすん)	ピアノ、声楽、器楽等の個人レッスン。全ての個人レッスンに科目の名称が付いているので、それぞれの科目名で履修登録が必要。
	修得(しゅうとく)	学問や技術を学んで、身につけること。 単位が取れていること。
	シラバス(しらばす)	各年度始めに配布される「授業計画」という冊子。講義の要旨や計画、評価方法、使用テキスト等が記載されている。
セ	選択(せんたく)	各自の必要に応じて、科目を自由に選ぶこと。
	選択必修(せんたくひっしゅう)	定められた複数の科目の中から、あらかじめ指定されている条件に従い、学生が選択し単位修得しなくてはならない科目のこと。
タ	単位(たんい)	学習の量と質を測る基準。科目を履修し、定められた水準を達成すると、各科目の単位が認定される。卒業するためには必修・必修選択・選択の「単位」の欄に記載されている数字を合計し、124単位以上修得しなければならない。
ツ	追試験(ついしけん)	定期試験を欠席し、追試験を希望する学生に対して行われる試験。9ページ参照。
ヒ	必修(ひっしゅう)	必ず学ばなければならないもの。在学中に必ず単位修得しなくてはならない科目。
リ	履修(りしゅう)	その科目を学習すること。年度(学期)のはじめに科目を登録すること。
	履修要綱(りしゅうようこう)	本冊子。入学時に配布され、卒業に必要な単位等、重要な事柄をまとめたもの。卒業までの間、通して使用する。

学籍番号		氏名	
------	--	----	--